

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会福祉原理・理論・対象・分野等、全般についての講義を行う。

授業の概要

少子高齢社会における社会福祉の現状を制度的視点からと共に、専門行動的視点から歴史の変遷を含めて鳥瞰図的にとりあげる。介護を行ううえで疾病や遭遇しやすい事故についての知識を持ち、保健医療関係者及び機関との連携、協力のあり方について学び、介護援助に必要な知識・技術・態度・視点を身につけ、介護の本質について検討する。

学修目標

本科目の学修目標は、(1) わが国の社会福祉制度の概要と各分野における現状の理解、(2) 身近に起こっている福祉領域に関する諸問題について、学生個々が関心を持つこと、(3) 個々の関心を持つ諸問題の現状と課題についての理解、を目標とする。

内容

1	社会福祉の理念と概念について、社会的歴史的所産として捉え方を学ぶ
2	社会福祉の対象と主体について、現在から過去にさかのぼってその変遷を学ぶ
3	社会福祉のニーズ概念について、需要と供給の関係のもとに検討してゆく
4	社会福祉の発展 について、英国と日本の比較をしながら学ぶ
5	社会福祉法体系について、社会福祉法制度の全体的把握を検討する
6	少子高齢化 (1) 少子高齢化の要因について、北欧諸国を中心に考える (ビデオ使用)
7	少子高齢化 (2) 少子高齢化の要因について、日本の現状を考える
8	高齢者福祉 (1) 介護保険制度の概要と要介護者問題の検討
9	高齢者福祉 (2) 介護現場の実際 (ビデオ使用) 虐待・抑制について考える
10	中間試験実施 (ノート・配付資料持ち込み可)
11	専門職としてのケアワーク (1) 専門職業としてのケアワークを考える
12	専門職としてのケアワーク (2) 他職種としてのケアワークを考える
13	社会福祉援助技術の概要 (1) ソーシャルワーク全般について制度組織との関係で紹介
14	社会福祉援助技術の概要 (2) F・P・バイステックの7原則、自己覚知、交流分析について
15	まとめ

評価

中間試験 (持ち込み自筆ノート・配付資料のみ) 及び定期試験の結果を総合して行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

馬場茂樹 / 編著 和田光一 / 編著 『現代社会福祉のすすめ』 学文社，2009年1月。

他オリジナル資料配付

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格を取得するのに必要となる科目で、社会福祉の中でも特に福祉政策に焦点化させていく内容なる。社会福祉概論 を学んだ上での授業展開の位置づけである。

講義では、福祉政策と人権視点、福祉政策の具体的課題、福祉政策における争点、公助・共助・自助の組み合わせ方、政府・市場・家族の役割分担のあり方等の事गरらを順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 福祉政策の構成要素 (福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む) の関係について理解することができる。 ・福祉政策と関連政策 (教育政策、住宅政策、労働政策を含む) の関係について理解することができる。 相談援助活動と福祉政策との関係について理解することができる。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

マ数

- 福祉政策の論点 (効率性と公平性、必要と資源、普遍主義と選別主義、自立と依存、自己選択と パターナリズム、参加とエンパワーメント、ジェンダー、福祉政策の視座等)
- 福祉政策の論点 (前回からの引き続き)
- 福祉政策における政府の役割
- 福祉政策における市場の役割
- 福祉政策における国民の役割
- 福祉政策の手法と政策決定過程と政策評価
- 福祉供給部門 (政府部門、民間〔営利・非営利〕部門、ボランティア部門、インフォーマル部門 等)
- 福祉供給部門 (前回からの引き続き)
- 福祉供給過程 (公私関係、再配分、割当、行財政、計画、その他)
- 福祉利用過程 (スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップ等)
- 福祉政策と教育政策
- 福祉政策と住宅政策
- 福祉政策と労働政策
- 福祉供給の政策過程と実施過程
- 授業の総まとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【テキスト】・塩野敬祐・福田幸夫編『現代社会と福祉 - 社会福祉 福祉政策』弘文堂
- ・ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法 2012（平成24年版）』ミネルヴァ書房
- 【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	安岡 芙美子、横山 貴美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉、介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）について理解する。

高齢者福祉制度の発展過程について理解する。

相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

内容

高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）

高齢者福祉制度の発展過程

介護保険法

介護報酬

介護保険法における組織及び団体の役割と実際

介護保険法における専門職の役割と実際

介護保険法におけるネットワーキングと実際

地域包括支援センターの役割と実際

老人福祉法

高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律

高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律

高齢者の居住の安定確保に関する法律

評価

レポートで30点、試験で70点とする。

試験、レポートを合計し評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 ミネルヴァ書房

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	横山 貴美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 * , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

様々な具体的事例を通して、高齢者の生活実態と社会情勢についての理解を深めるなかで、高齢者をとりまく諸課題を整理し、高齢者の「幸せ」について考える。

内容

- 1 . 介護福祉のあり方
 - 介護の概念と対象
 - 介護過程
 - 認知症ケア
 - 終末期ケア
 - まとめ
- 2 . 介護保険制度の実際 (その 1 ~ その 3)
- 3 . 高齢者をとりまく諸課題
 - 介護を支えるさまざまな専門職と協働の視点
 - 高齢者虐待
 - 高齢者が安心して生活できる環境づくり
 - 高齢者の権利擁護
 - まとめ
- 4 . 高齢者の「幸せ」について (その 1 ~ その 2)

評価

レポート (30 点) 、試験 (70 点) としてその合計点で評価を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 ミネルヴァ書房

科目名	障害者福祉論		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に対応する科目であり、国家試験受験資格取得に必要な科目である。また介護福祉士資格取得のための指定科目である。

科目の概要

本科目では、(1) 障害のある人の生活実態とこれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要 (地域移行や就労の実態を含む) について理解する。(2) 障害者福祉制度の発展過程について理解する。(3) 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害のある人の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

学修目標

授業内容についてテキストを精読することと、索引に登場する用語について調べ理解しておくことが求められる。その上で以下の点について理解できているかを目標とする。

- (1) 障害のある人への福祉の歴史と理念について説明ができること
- (2) 障害のある人の生活実態について説明できること
- (3) 障害のある人への自立支援制度の概要とサービスについて説明できること
- (4) 障害のある人への専門職のかかわりのポイントについて説明できること

内容

1	オリエンテーション、障害者福祉の視点
2	障害者福祉の歴史 (欧米編)
3	障害者福祉の歴史 (日本編)
4	障害者福祉の基本理念 各権利宣言・法制度
5	障害者福祉の基本理念 障害者福祉実践の展開
6	障害者の概念と障害者の実態
7	障害者福祉の法体系
8	障害者自立支援法・新法の骨格の概要
9	障害者福祉サービス
10	障害者福祉サービスにおける給付の仕組み
11	障害者福祉サービスにおける課題
12	障害者の生活保障
13	障害者福祉にかかわる専門職
14	障害者の社会参加
15	障害者福祉の今後の展望、まとめ

評価

試験による評価（中間試験2回各15点前期試験60点）

平常（授業態度等）評価10点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相澤譲治他『障害者福祉論』みらい

推薦書・参考書等は随時紹介する

科目名	医学一般		
担当教員名	高世 秀仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 * , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

近年、急激な高齢化社会がすすみ疾病構造の変化がおこっている。高齢者、慢性疾患の増加に対し介護、福祉分野の充実が望まれる。よりよいケアの提供するためには、健康、病気、老化に関する医学知識は必須である。

本講座のねらいは、福祉・介護の現場に必要な医学の知識を学び、自分の健康について関心を持ち、よりよい対人援助ができる人材を育てることにある。

内容

- 1 医学とは
- 2 成長・発達
- 3 身体のしくみ
- 4 生活習慣病
- 5 心疾患・高血圧・糖尿病
- 6 内分泌・呼吸器・消化器
- 7 血液・膠原病・腎臓
- 8 感染症
- 9 感染対策・難病対策
- 10 先天性疾患・高齢者の病気
- 11 精神疾患
- 12 リハビリテーション
- 13 健康とは
- 14 「死」とは
- 15 まとめ

評価

筆記試験 80点 授業態度 20点 で評価をおこないます。

合格点に満たなかった場合は「再試験」をおこないます。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会 『人体の構造と機能及び疾病』 中央法規

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークの概念、ソーシャルワーカーの業務について学ぶことを目標とする。

そのためにまず社会福祉士、精神保健福祉士という国家資格の役割と意義について理解する。さらに相談援助の概念及びその範囲についてその形成過程から理解する。

そして、相談援助に関わる重要な理念の1から8までを学ぶことでソーシャルワークの基礎知識を身につけ、次のステップへ向かう。

内容

1	社会福祉士及び介護福祉士法の概要
2	社会福祉士の役割と意義
3	精神保健福祉士法の概要
4	精神保健福祉士の役割と意義
5	ソーシャルワークにかかわる各種の国際定義
6	ソーシャルワークの概念と範囲
7	相談援助の理念 1 人権尊重
8	相談援助の理念 2 社会正義
9	相談援助の理念 3 利用者本位
10	相談援助の理念 4 尊厳の保持
11	相談援助の理念 5 権利擁護
12	相談援助の理念 6 自立支援
13	相談援助の理念 7 社会的包摂
14	相談援助の理念 8 ノーマライゼーション
15	まとめ

評価

レポート40点、試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

「相談援助の基盤と専門職」(新・社会福祉士養成講座) 中央法規

科目名	生活学概論		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、人間生活学部で学ぶすべての科目の基礎となる理論を説くものである。

人間としての生活を考えるうえで、生活の諸相である衣生活・食生活・住生活・家族と家庭生活などについて学ぶことは、よりよい人生を過ごすために大切である。特にこの科目では、高齢期の生活にも重点をおき、問題点や課題などを見いだし認識を深める。これらを通して、日常の生活を充実させていくための総合的な視点と思考力を養い、実践できるようにする。授業形態は、講義を中心とするが、視聴覚機器や標本などを用いて現実の生活を想起させ、興味・関心を深めながら進めていく。

学修目標は次の通りである。

生活学概論の基礎的な知識と理論が理解できたか。

生活学概論を学ぶ方法論が身についたか。

他の科目と総合し、学問的な態度をもって実践することができるか。

内容

1	ガイダンス(科目の学び方とその視点)
2	家族と家庭生活
3	家事労働と介護労働 生活時間
4	生活設計 消費者教育
5	高齢者と家族関係
6	被服の起源と役割 被服材料と被服管理
7	人体形態の把握と既製服サイズシステム
8	高齢者と障害者の被服
9	住まいの役割と機能
10	生活行動と住まいのかたち 快適で安全な住まい
11	高齢者と障害者の住まい
12	食生活と健康 栄養素の働き
13	食品の安全性
14	高齢期の食生活
15	総括 理論の実践化にむけて

評価

平常点・課題 40% 試験 60% 2 / 3 以上出席することで評価を受けられ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する

科目名	社会福祉の歴史		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間福祉学科専門科目であり、社会福祉基礎科目である。

1. 社会福祉をめぐる日本及び欧米の歴史について学び、さらに社会福祉の理念と意義について理解する。
2. 社会福祉に影響を及ぼした人物・思想・実践を紹介し、現在に継承されている思想・実践について学ぶ。
3. 適宜、タイムリーな話題、事例を引用して身近な内容とする。

1. 社会福祉をめぐる動向について理解し、歴史上重要な事項の概略を述べることができる。
2. 社会福祉に影響を及ぼした人物の内、興味ある人物について説明することができる。

内容

1	オリエンテーション	社会福祉の歴史を学ぶ意義について
2	現代社会と社会福祉	社会福祉の概念、範囲について
3	社会福祉の歴史：日本 1	日本における前近代の状況について
4	社会福祉の歴史：日本 2	日本における近代の状況について
5	社会福祉の歴史：日本 3	人物・思想・実践 (前近代・近代)
6	社会福祉の歴史：日本 4	日本における近代から戦後にかけての状況について
7	社会福祉の歴史：日本 5	日本における戦後から現在に至る状況について
8	社会福祉の歴史：日本 6	人物・思想・実践 (近代から戦後)
9	社会福祉の歴史：西洋 1	西洋における前近代から近代の状況について
10	社会福祉の歴史：西洋 2	人物・思想・実践 (前近代・近代)
11	社会福祉の歴史：西洋 3	西洋における前近代から近代の状況について
12	社会福祉の歴史：西洋 4	人物・思想・実践 (近代から戦後)
13	社会福祉の歴史：日本と西洋	人物・思想・実践のまとめ
14	現代の課題・直近の動向について	
15	まとめ	

評価

筆記試験 (60点) レポート (40点) とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 よくわかる社会福祉の歴史 ミネルヴァ書房

【推薦書】 【参考図書】 随時紹介する

科目名	養護原理		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 1 社会的養護される子どもの状況について理解する。
- 2 社会的養護の体系、児童福祉施設、及び里親について理解する。
- 3 児童福祉施設における養護の実際を理解する。
- 4 児童福祉施設の職員の役割などについて理解する。
- 5 児童観、施設及び里親養護観を養う。

内容

1	児童養護の概念
2	子どもの権利
3	養育
4	保護
5	治療的援助
6	自立
7	社会的養護の概要
8	乳児院
9	児童養護施設 1
10	児童養護施設 2
11	児童自立支援施設
12	情緒障害児短期治療施設
13	里親養護 1
14	里親養護 2
15	まとめ

評価

レポート40点、試験60点とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

児童の福祉を支える 社会的養護 坂本正路他 萌文書林

科目名	女性と福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

少子高齢社会・人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。福祉の利用者や福祉サービスを担う人々のイメージも大きく変化した。その結果、社会全体の福祉観も変わりつつある。しかし、社会的文化的性差 (ジェンダー) が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。学修の目標は、講義内容を自らの生き方と関連付けて理解し、社会保障・社会福祉の制度リテラシーの基本とすること。

内容

1	少子高齢時代の持続可能な社会のビジョンとは
2	男女共同参画に関する政策・制度の変化とその影響
3	社会保障・福祉サービスに関する政策・制度の変化とその影響
4	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
5	児童の環境と出産・育児支援
6	母子・父子家庭の抱える問題
7	高齢者の自立と介護問題
8	障害者 (児) の自立支援に関する問題
9	新たな貧困問題とホームレス
10	在日外国人の生活問題
11	売買春・セクハラ・DVの解決
12	福祉の仕事と教育
13	ボランティア・市民活動・NPOの役割
14	福祉を創りだした女性たち
15	レポートの報告と講評

評価

意見の発表・討議への参加 (20点)、期末レポート (80点) とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書：杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』有斐閣選書

春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K

広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H

中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N

杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

総合的かつ包括的相談援助の動向と専門職的機能の展開を理解することを目標とする。

そのために重要な役割としての権利擁護をはじめ、相談援助にかかわる専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。

また、諸外国の動向、及び現場で生じるジレンマの実際を学び、ジェネラリスト視点に立つこと、及び他職種連携の意義を学ぶことからソーシャルワーカーとしての素地を作り上げる。

内容

1	相談援助における権利擁護の意義
2	相談援助専門職の概念と範囲
3	福祉行政等における専門職
4	民間の施設・組織における専門職
5	諸外国の動向：イギリス
6	諸外国の動向：ドイツ、アメリカ
7	専門職倫理の概念
8	専門職倫理
9	倫理的ジレンマ
10	倫理的ジレンマの実際
11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な相談援助の意義と内容
12	ソーシャルワークにおける総合的・包括的な援助の実際
13	ジェネラリストの視点に基づく他職種連携 (チームアプローチ) の意義と内容
14	総合的かつ包括的な相助と他職種連携の意義と内容
15	まとめ

評価

レポート40点、試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

「相談援助の基盤と専門職」(新・社会福祉士養成講座) 中央法規

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークの理論と方法について学習する。社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある。相談援助における人と環境との相互作用 (交互作用) に関する理論について理解する。また、相談援助の過程について理解する。ソーシャルワークにおける代表的な3つの実践モデルについて理解する。システム理論およびソーシャルワークの代表的な3つの実践モデルを理解し、その概要を説明できるようになる。相談援助の過程を理解し、その概要を説明できるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	ソーシャルワークの定義
3	相談援助の過程：インテーク、アウトリーチ
4	相談援助の過程：アセスメント
5	相談援助の過程：プランニング、モニタリング
6	相談援助の過程：評価、終結
7	相談援助の過程：効果測定
8	ケアマネジメントの定義とその過程
9	人と環境の相互作用 (交互作用) : 一般システム論
10	人と環境の相互作用 (交互作用) : 自己組織性、オートポイエシス
11	家族療法とシステムズアプローチ：基本的な概念
12	家族療法とシステムズアプローチ：構造派、戦略派
13	3つの実践モデル：医学モデル、生活モデル
14	3つの実践モデル：ストレングスモデル
15	まとめ 評価

評価

中間テスト30点、最終テスト70点の計100点より評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉養成講座8 社会福祉士シリーズ 相談援助の理論と方法』

中央法規

その他授業中に指示。

科目名	就労支援サービス論		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「就労支援サービス」に対応する科目であり、国家試験受験資格取得に必要な科目である。

科目の概要

本科目では、次の内容について主にテキストと関係法令をもとに講義によって学習する。

- (1) 相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解する。
- (2) 就労支援にかかわる組織、団体及び専門職について理解する。
- (3) 就労支援分野と関連分野との連携について理解する。

学修目標

授業内容についてテキストを精読することと、索引に登場する用語について調べ理解しておくことが求められる。その上で以下の点について理解できているかを目標とする。

- (1) 労働関連法令と近年の労働市場の変化について説明ができること
- (2) 障害のある人への就労支援サービスの概要について説明できること
- (3) 低所得者への就労支援サービスの概要について説明できること

内容

1	オリエンテーション、「働くこと」の意味
2	労働市場の変化
3	労働に関する法律
4	労働に関する公的保険制度
5	障害者の就労の現状
6	障害者福祉施策における就労支援
7	障害者の就労における専門職の役割
8	障害者の就労における民間の取り組み
9	低所得者の就労の現状
10	低所得者の就労支援
11	低所得者の就労支援制度
12	低所得者の就労のための組織・団体の役割
13	就労支援の流れと職業リハビリテーション
14	就労支援ネットワーク
15	就労支援サービスの今後の展望、まとめ

評価

試験による評価（中間試験2回各15点前期試験60点）

平常（授業態度等）評価10点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会『就労支援サービス』中央法規
推薦書や参考所については随時紹介する。

科目名	児童・家庭福祉論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1 現代社会における子ども・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（ひとり親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援等）と実際を理解する。
- 2 子ども・家庭制度の発展過程を理解する。
- 3 子供の権利（子どもの最大の利益を実現する視点）を理解する。
- 4 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらましを理解する。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢（少子化、いじめ、少年非行、家庭養育機能等
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利（児童福祉法、児童の権利に関する条約等）
5	児童福祉法
6	児童虐待の防止に関する法律
7	D V法の概要及び売春防止法の概要
8	母子及び寡婦福祉法
9	母子保健法
10	児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当の支給に関する法律の概要
11	次世代育成支援対策推進法・少子化対策推進法
12	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際（国・都道府県・市町村等の役割）
13	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と他職種連携と実際
14	児童相談所の役割と実際
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度 ミネルヴァ書房

参考図書 社会福祉六法

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 / 本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。1年次履修「社会福祉概論」、を踏まえて本科目を理解する必要がある。2年次後期履修「福祉行財政と福祉計画」、3年次後期履修「社会福祉施設経営論」、3年次後期履修「ソーシャルワーク論」、4年次前期履修「ソーシャルワーク論」とも関連性がある。

科目の概要 / 地域福祉の基本的考え方(講義1-5)、地域福祉の主体と対象(講義6-8)、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民(講義9-12)、地域福祉の推進方法(講義13-14)について理解する。

学修目標 / 概要と以下の4点の目標と講義内容を確認し、テキストを事前によく読み、講義で理解するよう努力し、ノートを整理して事後学習を心がける。また、随時配布される資料やリアクションペーパーで授業内容の振り返りを活用し、より理解を深められるようにする。

1. 地域福祉の理念について理解する
2. 福祉教育について理解する
3. 地域福祉に関わる行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する
4. 地域福祉の推進方法について理解する

内容

1	地域福祉とは何か
2	新しい社会福祉システムとしての地域福祉
3	地域福祉の発展過程
4	地域福祉の基本的な考え方
5	地域福祉推進の具体的な活動
6	地域福祉の主体と福祉教育
7	福祉教育の考え方
8	福祉教育の具体的な活動と展開方法
9	地域福祉計画と地域福祉活動計画
10	社会福祉協議会
11	地域福祉に係る組織、団体
12	地域福祉に係る専門職や地域住民
13	地域福祉推進方法としてのコミュニティソーシャルワーク
14	コミュニティソーシャルワークの展開方法
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30%)と、学修目標に基づく国家試験形式のペーパーテスト(60%)、通常の授業態度(

10%)、三分の二以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座第9巻『地域福祉の理論と方法』第2版 中央法規株式会社

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 / 本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。1年次履修「社会福祉概論」を踏まえて本科目を理解する必要がある。2年次後期履修「福祉行財政と福祉計画」、3年次後期履修「社会福祉施設経営論」、3年次後期履修「ソーシャルワーク論」とも関連性がある。

科目の概要 / 地域福祉の推進方法(講義1-14)、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民(講義1,2,4,5,8)、地域福祉の基本的考え方(講義14)について理解する。

学修目標 / 概要と以下の3点の目標と講義内容を確認し、テキストを事前によく読み、講義で理解するよう努力し、ノートを整理して事後学習を心がける。また、随時配布される資料やリアクションペーパーで授業内容の振り返りを活用し、より理解を深められるようにする。

1. 地域福祉の推進方法について理解する
2. 地域福祉に関わる行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する
3. 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方について理解する

内容

1	多職種協働体制の重要性
2	専門職と住民の関係
3	コミュニティソーシャルワークを機能させるためのソーシャルワーカーの視点
4	地域福祉の推進における住民参加の意義
5	住民参加の方法
6	ソーシャルサポートネットワーク
7	社会資源の活用・調整
8	共同募金や助成金制度
9	社会資源の開発
10	地域福祉におけるアウトリーチの意義
11	地域における福祉ニーズの把握方法と実際
12	地域トータルケアシステム
13	地域における福祉サービスの評価方法と実際
14	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30%)と、学修目標に基づく国家試験形式のペーパーテスト(60%)、通常の授業態度(10%)、三分の二以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座第9巻「地域福祉の理論と方法」第2版 中央法規株式会社

科目名	社会調査の基礎		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士指定科目 社会調査の基本的知識を講義し、身近な調査・統計データの分析やアンケート調査票の作成などを通して、実践的に学ぶ。学修目標は以下のとおり。1) 社会調査の意義と目的および方法の概要を理解し、社会福祉援助技術における位置づけを理解する。2) 統計法の概要、社会調査における倫理・個人情報保護について理解する。3) 量的調査の方法および質的調査の方法について理解する。

内容

1	社会調査の意義と目的および対象、社会福祉援助技術としての留意点
2	統計法の概要および各種統計の利用方法
3	課題 : 統計データの検索と分析
4	社会調査における倫理および個人情報保護
5	量的調査の分類 - 全数調査と標本調査 (含サンプリング)、横断調査と縦断調査等
6	量的調査の方法 - 自計式調査と他計式調査、測定の水準、信頼と妥当性等
7	量的調査における質問紙の作成方法と留意点、配布と回収方法
8	量的調査におけるデータの集計と分析
9	課題 : 質問紙の作成と集計・分析例の検討
10	質的調査の方法 - 観察法・面接法
11	質的調査における記録と留意点
12	質的調査によるデータの整理と分析
13	質的調査の分析例の検討
14	社会調査における I T の活用方法
15	レポート発表および講評

評価

授業中の課題 3 割、報告・発表 1 割、最終レポート 6 割

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書 : 森岡清志編著「ガイドブック社会調査」第2版、日本評論社、2007

根本博司他編著「初めて学ぶ人のための社会福祉調査」中央法規

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座5社会調査の基礎」中央法規

科目名	福祉行財政と福祉計画		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格の取得に必要な科目で、社会福祉政策の中において特に福祉行財政と福祉計画の全体像を学ぶものである。社会福祉概論 ・ を学んだ上での授業展開内容であり、また社会保障論 ・ 、地域福祉の理論と方法、高齢者に対する支援と介護保険制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、児童・家庭福祉論、保健医療サービス論といった科目に関連がある。なお、本科目は社会福祉士指定科目でもある。

講義では、福祉行政の意味・役割、国と地方の関係性（地方分権）、福祉行政機関、専門職配置、国及び地方における福祉財政、様々な福祉計画（国・都道府県・市町村）の概要、福祉計画の策定・実施・評価の過程といった事からについて順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。福祉行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解することができる。福祉行財政の実際について理解することができる。福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解することができる。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

マ数

- 1 国の役割（法定受託事務と自治事務等）
- 2 都道府県の役割（福祉行政の広域的調整、事業者の指導監督等）
- 3 市町村の役割（サービスの実施主体、介護保険制度における保険者等）
- 4 国と地方の関係（地方分権の推進）
- 5 福祉の財源（国・地方の財源、保険料財源、民間の財源等）
- 6 福祉行政の組織及び団体の役割（福祉事務所、児童相談所、婦人相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、地域包括支援センター等）
- 7 福祉行政における専門職の役割（福祉事務所の現業員、査察指導員、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、その他）
- 8 福祉計画の意義と目的
- 9 福祉計画における住民参加の意義
- 10 福祉行財政と福祉計画の関係
- 11 福祉計画の主体
- 12 福祉計画の種類（地域福祉計画、老人保健福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画、その他）
- 13 福祉計画の策定過程（問題分析と合意形成過程、その他）・策定方法・留意点・評価方法
- 14 福祉計画の実際
- 15 授業の総まとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には、再レポートを提出してもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】池村正道編『福祉行財政と福祉計画 - 社会福祉行財政・福祉計画』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	社会理論と社会システム		
担当教員名	斉川 富夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- ・システム (システム的に考える) とは、どういうもの (こと) なのか、基礎的理解をめざす。
- ・近代化・産業化・都市化がもたらす社会の変容について学ぶ。特に、今日の地域と家族の変容について学ぶ。
- ・福祉国家の意義と今日、福祉国家が直面している問題状況について学ぶ。

内容

1	システム (システム思考) とは、どのようなものか。
2	システムとしての経済。
3	ヨーロッパ経済の歴史ー福祉国家の始まり
4	産業化ー産業構造の高度化
5	産業化と都市化ーライフスタイルの変化
6	地域の社会学 ー農村の社会学
7	地域の社会学 ー都市の社会学
8	集団の社会学
9	テーラーシステムと人間関係論
10	ウェーバーと近代官僚制
11	家族ー定義と分類
12	近代化と家族の変容
13	福祉国家の形成
14	現代社会の課題ー高齢化とグローバル化
15	まとめ

評価

- ・期末試験に 70 点を配点。
- ・小テストの成績を含めて、授業態度に 30 点を配点。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- ・特別に教科書は指定しない。
- ・授業時間中に、参考文献を適時紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	横山 貴美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントを始めとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的関係性によって成り立つ。ここに対人援助職といわれる福祉実践の特徴がある。それゆえ将来、福祉職を目指す学生は専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築き、生きていく力を形成することが求められる。これは他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深めていく力であると言い換えられる。この授業では、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深めることを狙いとする。

内容

- 1、オリエンテーション
- 2、自己覚知その1～4
- 3、価値観と他者への理解その1～5
- 4、援助的コミュニケーションその1～5

評価

授業ごとのふりかえりのレポートおよび最終レポートと授業態度をあわせて評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 ワークブック 『社会福祉援助技術演習 対人援助の基礎』 ミネルヴァ書房

科目名	相談援助演習		
担当教員名	横山 貴美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントを始めとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的関係性によって成り立つ。ここに対人援助職といわれる福祉実践の特徴がある。それゆえ将来、福祉職を目指す学生は専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築き、生きていく力を形成することが求められる。これは他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深めていく力であると言い換えられる。この授業では、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深めることを狙いとする。

内容

- 1、オリエンテーション
- 2、自己覚知その1～4
- 3、価値観と他者への理解その1～5
- 4、援助的コミュニケーションその1～5

評価

授業ごとのふりかえりのレポートおよび最終レポートと授業態度をあわせて評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 ワークブック 『社会福祉援助技術演習 対人援助の基礎』 ミネルヴァ書房

科目名	相談援助演習		
担当教員名	横山 貴美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントを始めとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的関係性によって成り立つ。ここに対人援助職といわれる福祉実践の特徴がある。それゆえ将来、福祉職を目指す学生は専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築き、生きていく力を形成することが求められる。これは他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深めていく力であると言い換えられる。この授業では、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深めることを狙いとする。

内容

- 1、オリエンテーション
- 2、自己覚知その1～4
- 3、価値観と他者への理解その1～5
- 4、援助的コミュニケーションその1～5

評価

授業ごとのふりかえりのレポートおよび最終レポートと授業態度をあわせて評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 ワークブック 『社会福祉援助技術演習 対人援助の基礎』 ミネルヴァ書房

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場면을再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場면을再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（与えること受け取ること）
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（ブラインド・ウォーク）
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：実施
11	模擬面接：実施
12	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	授業のまとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場면을再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場면을再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（与えること受け取ること）
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（ブラインド・ウォーク）
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：実施
11	模擬面接：実施
12	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	授業のまとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業中資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場면을再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場면을再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（与えること受け取ること）
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（ブラインド・ウォーク）
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：実施
11	模擬面接：実施
12	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	授業のまとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。授業中資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

科目名	相談援助演習		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

内容

相談援助演習は から まであり、自己覚知や価値の問題、コミュニケーション能力の向上、ソーシャルワークの諸理論を実践的に習得するなど段階的にソーシャルワークの能力を高めていく。そのなかで相談援助演習 では、具体的な事例をとりあげ、アセスメントやケアプランの作成を行い、実際の事例を取り扱うというのは、どういうことなのかを体得させる。事例は高齢者をはじめとする、分かりやすい事例から、高齢+障害など複雑な問題ケースに難度をあげながら、理解を深めていく。

評価

毎回のアセスメントシート、やケアプランシートなどの提出物、発表、レポートにより評価する。
なお演習であるので、出席は5分の4以上必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

内容

相談援助演習は から まであり、自己覚知や価値の問題、コミュニケーション能力の向上、ソーシャルワークの諸理論を実践的に習得するなど段階的にソーシャルワークの能力を高めていく。そのなかで相談援助演習 では、具体的な事例をとりあげ、アセスメントやケアプランの作成を行い、実際の事例を取り扱うというのは、どういうことなのかを体得させる。事例は高齢者をはじめとする、分かりやすい事例から、高齢+障害など複雑な問題ケースに難度をあげながら、理解を深めていく。

評価

毎回のアセスメントシート、やケアプランシートなどの提出物、発表、レポートにより評価する。
なお演習であるので、出席は5分の4以上必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

内容

相談援助演習は から まであり、自己覚知や価値の問題、コミュニケーション能力の向上、ソーシャルワークの諸理論を実践的に習得するなど段階的にソーシャルワークの能力を高めていく。そのなかで相談援助演習 では、具体的な事例をとりあげ、アセスメントやケアプランの作成を行い、実際の事例を取り扱うというのは、どういうことなのかを体得させる。事例は高齢者をはじめとする、分かりやすい事例から、高齢+障害など複雑な問題ケースに難度をあげながら、理解を深めていく。

評価

毎回のアセスメントシート、やケアプランシートなどの提出物、発表、レポートにより評価する。
なお演習であるので、出席は5分の4以上必要である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科目名	基礎介護論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。

授業の概要

1. 介護福祉士を取り巻く状況(介護の変遷・少子高齢社会・家族機能の変化、介護の社会化、介護ニーズの変化)や2. 介護問題理解、3. 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて学習する。

学修目標

介護福祉士の基盤となる、介護の基礎知識の習得と「尊厳」と「自立」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

内容

1	前期オリエンテーション	内 容：求められる介護福祉士とは何か
2	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～相互扶助と慈善救済活動～
3	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～養老律令と介護行為～
4	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～恤救規則から生活保護制度～
5	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～老人福祉法から介護保険制度～
6	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：高度経済成長と家族機能の変化
7	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：核家族と介護の社会化
8	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：老老介護と高齢者虐待
9	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：福祉専門職種資格の変遷
10	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：介護福祉士の定義と義務規定
11	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：名称独占と業務独占
12	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：介護福祉士養成の現状と課題
13	専門職団体の活動	内 容：介護福祉士会の現状と課題
14	専門職団体の活動	内 容：日本介護福祉士会生涯学習制度
15	まとめ	

評価

1. 授業態度、2. 筆記試験、を総合して評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

西村 洋子(編集)『最新 介護福祉全書 3 介護の基本』メジカルフレンド社,平成20年。

他オリジナル資料配付。

科目名	基礎介護論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。

授業の概要

1. 「尊厳を支える介護」、2. 「自立に向けた介護」3. 「介護を必要とする人の理解」4. 「介護従事者の倫理（職業倫理、利用者の人権と介護、プライバシーの保護）」、について学習する。

学修目標

介護福祉士の基盤となる、介護の基礎知識の習得と「尊厳」・「自立」・「倫理」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

内容

1	尊厳を支える介護	内 容：QOLと介護のあり方
2	尊厳を支える介護	内 容：A. マズローの欲求階層理論と尊厳を支える介護
3	尊厳を支える介護	内 容：ノーマライゼーションと尊厳を支える介護
4	尊厳を支える介護	内 容：ノーマライゼーションからエンパワメント
5	尊厳を支える介護	内 容：憲法25条生存権と尊厳を支える介護
6	尊厳を支える介護	内 容：憲法13条幸福追求権と尊厳を支える介護
7	尊厳を支える介護	内 容：生活保護と尊厳を支える介護
8	介護を必要とする人の理解	内 容：人間の多様性・複雑性の理解～生活史、価値観～
9	介護を必要とする人の理解	内 容：人間の多様性・複雑性の理解～生活習慣、文化等～
10	介護サービスの現状	内 容：介護保険制度の概要～保険者と被保険者～
11	介護サービスの現状	内 容：介護保険制度の概要～介護保険施設の種類とサービス～
12	介護実践における連携	内 容：～他職種連携の意義と目的～
13	介護従事者の倫理	内 容：介護従事者の職業倫理
14	介護従事者の倫理	内 容：介護実践の場で求められる倫理
15	まとめ	

評価

1. 授業態度、2. 筆記試験、を総合して評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

西村 洋子(編集)『最新 介護福祉全書 3 介護の基本』メジカルフレンド社,平成20年。

他オリジナル資料配付

科目名	介護と倫理		
担当教員名	織田 つや子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、介護福祉士養成課程カリキュラムにおける科目の1つです。

科目の概要

この科目は、介護職が現場で介護実践するにあたって、その基盤となる大切な倫理を学びます。

介護職が倫理を学ぶ意義(1)、専門職とは(2、3)、専門職の価値(4、5、6)、 プライバシーの保護(7、8、9)、利用者の人権(10、11、12、13、14)について学び、理解を深めます。

学修目標

授業の形式は、講義及びグループワークによる演習です。毎回、授業後に演習シートにより、授業を振り返り、理解を深めます。

介護職が倫理を学ぶ意義を理解する 専門職とは何かについて理解する 介護福祉士という専門職の価値について理解する 介護場面におけるプライバシーの保護について理解する 利用者の人権を守るために、さまざまな領域の事例を学び、理解を深める

授業では、学び、理解するだけでなく、グループワークを通して、共に学び、考えを深めてほしいと思います。そして倫理というテーマは現場で仕事をしていくうえで、ずっと考え続けていくものです。その礎となるものをこの授業で得ていただきたいと思います。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1	介護職が倫理を学ぶ意義
2	専門職とは(1) 専門職とはなにか
3	専門職とは(2) 個人の価値観と専門職の価値
4	専門職の価値(1) 倫理綱領
5	専門職の価値(2) 倫理綱領の作成
6	専門職の価値(3) 倫理綱領の検討
7	プライバシーの保護(1) 個人情報保護法
8	プライバシーの保護(2) 個別ケアとプライバシー
9	プライバシーの保護(3) 個人の尊厳と自立支援
10	利用者の人権(1) 虐待の定義と現状
11	利用者の人権(2) 高齢者虐待 事例検討
12	利用者の人権(3) 高齢者虐待 事例検討
13	利用者の人権(4) 障がい者虐待 事例検討
14	利用者の人権(5) 児童虐待 事例検討
15	まとめ

評価

[単位認定の方法及び基準]

毎回授業後に記入する演習シート 50点、授業態度・グループワークへ参加する姿勢 10点、学修目標に関するレポート40点により評価を行い、60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士養成講座編集委員会 『新・介護福祉士養成講座3 介護の基本』中央法規出版

介護福祉士養成講座編集委員会 『新・介護福祉士養成講座4 介護の基本』中央法規出版

三好明夫編著 『介護福祉学 介護福祉士の専門性と独自性の研究』学文社

科目名	介護と自立		
担当教員名	久保田 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける介護の基本に関する科目のひとつです。「その人らしい自立」「自立に向けた介護」について様々な視点から学びます。

科目の概要

はじめに、様々な「自立」の概念を学びます。各年齢に応じた自立、心身の障がいを持ちながらの自立、他者との関係の中での自立、など概念としての「自立」について考えていきます。

次に、動作の自立について学びます。身体を動かして自ら感じ取ることや他者の動きを観察することを通してその人の潜在能力を引き出す介護方法を学びます。また、その人に適した車椅子・装具・自助具等の道具の利用方法について学びます。

さらに、実際の介護場面での「自立に向けた介護」がイメージできることを目指して、医療・福祉現場での実践事例の紹介、自立を支える様々な専門職からのレクチャーなどを予定しています。

学修目標

1. その人らしい自立とは何かを理解する。
2. 動作の自立をみずえた介護方法を理解し、簡単な実践ができる。
3. 自立した生活を支えるために多職種連携が必要であることについて理解し、イメージができる。

内容

1	自立とは
2	自立に向けた介護（1）ベッド上での動作自立
3	自立に向けた介護（2）座位、立位での動作自立
4	自立に向けた介護（3）歩行の自立
5	自立に向けた介護（4）姿勢の工夫
6	自立に向けた介護（5）道具の利用
7	ICFの理解（1）総合的な視点としてのICF
8	ICFの理解（2）隠れたプラスの側面を引き出すICF
9	自立を支える専門職（1）
10	自立を支える専門職（2）
11	自立を支える専門職（3）
12	自立を支える専門職（4）
13	医療・福祉現場での実践事例（1）
14	医療・福祉現場での実践事例（2）
15	まとめ

評価

レポート（30点）、実技（20点）、試験（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は「再試験」を行いません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】必要に応じ随時プリントを配布する

【推薦書】野尻晋一著『リハビリテーションからみた介護技術』中央法規

【参考図書】上田敏著『ICF（国際生活機能分類）の理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか』

科目名	介護と環境		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

利用者の「尊厳ある暮らし」を支えるためには、安全の確保とリスクマネジメントは不可欠である。介護におけるリスクマネジメントの考え方を理解し、事故や感染症対策の具体的手法を学ぶ。またそのためにも介護者自身の心身の健康は重要であり、健康管理に必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

内容

1	オリエンテーション。健康管理の意義と目的
2	介護従事者の安全環境（1）身体の健康管理（感染予防と対策、腰痛予防と対策等）
3	介護従事者の安全環境（2）心の健康管理（ストレス、燃えつき症候群、その他）
4	介護従事者の安全環境（3）安心して働ける環境づくり
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント：介護における安全の確保の重要性
6	事故防止・安全対策（1）事故防止・安全対策のためのリスクマネジメントの仕組み
7	事故防止・安全対策（2）生活の中のリスクと対策
8	事故防止・安全対策（3）ひやりはっと事例
9	事故防止・安全対策（4）介護判例より
10	感染対策（1）感染予防の意義と介護
11	感染対策（2）感染予防の基礎知識と衛生管理
12	感染対策（3）感染予防・衛生管理のための方策 生活の場での感染対策・演習
13	感染対策（4）感染管理のための方策 医療との連携
14	介護と環境（災害時の対応、苦情への対応の基本）
15	まとめ

評価

学習状況・レポート提出状況（40%）、ペーパーテスト（60%）により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：改訂版「安全な介護 ポジティブ・リスクマネジメント」Bricolage、 適宜、資料配布

参考書：「高齢者ケア リスクマネジメント生活支援技術マニュアル」日総研

平田厚著「実践 リスクマネジメント」全国社会福祉協議会

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

授業の概要

コミュニケーション技術 では介護におけるコミュニケーションの基本について、(1) コミュニケーションとは、(2) コミュニケーションの基本、(3) コミュニケーションの理論と実際、について演習を展開する。

学修目標

本科目の学修目標は、介護におけるコミュニケーションの基本、について、グループワーク演習を主体としてその理論とスキルを習得することを目標とする。

内容

1	オリエンテーション ~ 授業の概要 ~
2	コミュニケーションとは (1) ~ 日常生活におけるコミュニケーション ~
3	コミュニケーションとは (2) ~ 日常生活におけるコミュニケーション場面 ~
4	コミュニケーションとは (3) ~ 日常生活におけるコミュニケーション手段 ~
5	コミュニケーションの基本 (1) ~ 介護福祉士に求められるコミュニケーション能力 ~
6	コミュニケーションの基本 (2) ~ 介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル ~
7	コミュニケーションの基本 (3) ~ 介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル ~
8	コミュニケーションの理論と実際 (1) ~ 自己紹介と他者紹介 ~
9	コミュニケーションの理論と実際 (2) ~ 自己紹介と他者紹介 ~
10	コミュニケーションの理論と実際 (3) ~ 自己開示 ~
11	コミュニケーションの理論と実際 (4) ~ 伝言ゲーム ~
12	コミュニケーションの理論と実際 (5) ~ 価値交流 ~
13	コミュニケーションの理論と実際 (6) ~ 交流分析と自己覚知 ~
14	コミュニケーションの理論と実際 (7) ~ リーダーシップ理論 ~
15	まとめ

評価

課題レポート 30%、定期試験 70% の結果を総合して行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

介護福祉士養成講座編集委員会 (編集) 『新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術』中央法規, 200

9年。

他オリジナル資料配付

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

授業の概要

コミュニケーション技術 では、(1) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、(2) 利用者の特性に応じたコミュニケーション (3) 介護におけるチームのコミュニケーションの基本、について演習を展開する。

学修目標

本科目の学修目標は、(1) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、(2) 利用者の特性に応じたコミュニケーション (3) 介護におけるチームのコミュニケーションの基本、グループワーク演習を主体としてその理論とスキルを習得することを目標とする。

内容

1	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本 (1)
2	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本 (2)
3	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本 (1)
4	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本 (2)
5	利用者の特性に応じたコミュニケーション (1) 高齢者とコミュニケーション
6	利用者の特性に応じたコミュニケーション (2) 認知症とコミュニケーション
7	利用者の特性に応じたコミュニケーション (3) 認知症とコミュニケーション
8	利用者の特性に応じたコミュニケーション (1) 障害とコミュニケーション
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション (2) 障害とコミュニケーション
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション (3) 障害とコミュニケーション
11	介護におけるチームのコミュニケーションの基本 (1)
12	介護におけるチームのコミュニケーションの基本 (2)
13	実習場面における再構成 (1)
14	実習場面における再構成 (2)
15	まとめ

評価

評価 課題レポート30%、定期試験70%の結果を総合して行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名） 介護福祉士養成講座編集委員会（編集）『新・介護福祉士養成講座 第5巻コミュニケーション技術』中央法規，2009年。

他オリジナル資料配付

科目名	生活支援技術概論		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。介護コース必修専門科目である。

科目の概要

私たちは「生活とは何か」について特に意識することなく、毎日を過ごしている。生活支援を理解するにあたり、最初に生活がどのような側面から構成されているかなど、「生活とは何か」を理解する必要がある。

人としての生活とは、単に生命を維持するためのものではなく、家族、地域や社会とかかわりを持ちながら、人間として尊厳のある暮らしをすることである。援助を必要な人にとって、人間として尊厳のある暮らしとは、どのようなものを、理解することを目指している。

内容

1. 生活とは何か 生活を理解する視点
 - 生活の定義
 - 自立と自律
 - 生活と健康
2. 生活経営とは 生活経営の構成要素
3. 生活支援の基本的な考え方
4. 生活支援における I C F の視点にもとづくアセスメント
 - I C F を活用したアセスメント事例を学ぶ
5. 生活支援における介護予防
6. 生活環境の理解 自宅・施設・グループホーム等

評価

課題レポート (30%)、ペーパーテスト (70%) 60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。介護コース必修専門科目である。

科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業における学習のねらいは、障害者や高齢者など、日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、尊厳・プライバシーを保持しながら、実習に必要な様々な生活支援技術を科学的な理論とともに習得することを目指している。

内容

1．生活支援技術とは何か

自立を尊重する生活支援技術

2．基本となる介護技術

3．アセスメントとは何か

4．自立に向けた環境の整備

5．自立に向けた移動の介護

移動の意義と目的

実際の介助の方法

歩行介助・車椅子介助・安楽な体位の保持・体位変換など

評価

課題レポート (30%)、実技試験 (60%)、授業態度 (10%) により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】介護技術全書編集委員会 『わかりやすい介護技術演習』 ミネルヴァ書房

壬生尚美 佐分子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。介護コースの必修専門科目である。

科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業における学習のねらいは、障害者や高齢者など、日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、尊厳・プライバシーを保持しながら、実習に必要な様々な生活支援技術を科学的な理論とともに習得することを目指している。

内容

講義による生活支援技術の理論を学びながら、実技演習を中心に行う。

1. 自立に向けた身じたくの介護

身じたくの意義と目的

整容行動、衣生活に関するアセスメント

生活習慣と装いの楽しみを支える介護

身じたくにおける介護技術

整容・口腔の清潔・衣服の着脱など

身じたくの介護における他職種の役割と協働

2. 自立に向けた食事の介護

食事の意義と目的

「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫

食事における介護技術

誤嚥の予防・食事介助の実際

口腔の清潔の介護

食事の介護における他職種の役割と協働

評価

課題・レポート (30%)、ペーパーテスト (70%) 60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】介護技術全書編集委員会 『わかりやすい介護技術演習』 ミネルヴァ書房
壬生尚美 佐分行子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。介護コースの必修専門科目である。

科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業における学習のねらいは、障害者や高齢者など、日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、尊厳・プライバシーを保持しながら、実習に必要な様々な生活支援技術を科学的な理論とともに習得することを目指している。

内容

特に尊厳の保持・プライバシーへの配慮が必要な支援について、その知識と技術を学ぶ。

1. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護

入浴の意義と目的

入浴に関する利用者のアセスメント

入浴・清潔保持における介護技術

一般浴・機械浴・シャワー浴・足浴・手浴など

入浴・清潔保持の介護における他職種の役割と協働

2. 自立に向けた排せつの介護

排せつの意義と目的

排せつに関する利用者のアセスメント

排せつにおける介護技術

トイレ・ポータブルトイレ・尿器・便器・おむつ

排せつの介護における他職種の役割と協働

3. 自立に向けた睡眠の介護

睡眠の意義と目的

睡眠における介護技術

安眠を促す介助方法

睡眠の介護における他職種の役割と協働

評価

課題レポート (30%)、実技試験 (60%)、授業態度 (10%) により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点

に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】介護技術全書編集委員会 『わかりやすい介護技術演習』 ミネルヴァ書房

壬生尚美 佐分行子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

科目名	生活環境支援技術		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「ケアワーク」は、日常生活に根ざした広い視野に立ち、食生活、被服生活、住生活などの各専門分野について理解を深めることが重要である。

このような視点から、介護の基礎となる「生活環境」とそこで営まれる「住」に関する様々な技能を習得し、かつ高齢者や障害者の生活環境支援の能力を養うことを目的としている。

住生活について様々な視点から解説を行い、高齢者や障害者の生活環境支援のための技術について理解を深めるものである。

但し、使用する機材があるため、人数に制限あり。

内容

1	現代の生活環境
2	100年前の暮らしと現代の暮らし
3	快適な現代生活と家庭電化製品
4	生活と色彩
5	色彩の基本とシステム
6	色彩調和
7	住居の役割と機能
8	住居の図面
9	住居のトレース1（基本事項）
10	住居のトレース2（平面図）
11	住居のトレース3（立面図）
12	住居のトレース4（断面図）
13	「ある介護福祉士の物語」1
14	「ある介護福祉士の物語」2
15	「ある介護福祉士の物語」3

評価

授業に対する意欲・関心・態度30点、及び随時の課題やレポートによる評価70点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の中で、適時参考文献を配布・紹介する。

科目名	家事生活支援技術		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は人間生活学部で学ぶすべての科目の基礎となる理論を説くものである。

人間生活の福祉を考えるうえで、その根底にあるのが家政学であり、人間生活はこれを基礎としている。福祉を学ぶ学生にとって家事生活支援技術は理論を見地化するうえで不可欠な科目である。授業を通して家庭生活について基本的な知識・技術を学び、日常の生活を充実させ、支援することのできる総合的な視点と思考力および実践的な態度を養う。

学修目標は次の通りである。

家事生活支援技術の基礎的知識と理論が理解できたか。

家事生活支援技術を学ぶ方法論が身についたか。

他の科目と総合し、学問的な態度をもって実践することができるか。

内容

1	ガイダンス（科目の学び方とその視点）
2	家庭生活の基礎知識（個人と家庭生活）
3	家庭生活の基礎知識（家庭生活とその経営、生活設計）
4	高齢者の家庭生活の特徴と問題点
5	障害者の家庭生活の特徴と問題点
6	家事援助の技法（調理1）
7	家事援助の技法（調理2）
8	家事援助の技法（掃除・ごみ捨て）
9	家事援助の技法（衣生活の基礎知識）
10	家事援助の技法（衣類・寝具の衛生管理）
11	家事援助の技法（裁縫1）
12	家事援助の技法（裁縫2）
13	家事援助の技法（買物）
14	自立に向けた家事の介護（利用者の状況に応じた介助の留意点）
15	総括

評価

平常点・課題40% 試験60% 2/3以上出席することで評価を受けることができ、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。介護コースの必修専門科目である。

科目の概要

感覚機能の低下、運動機能の低下、認知・知覚機能の低下など、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術について学ぶ。

学修目標

日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、利用者の状況に応じた適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、尊厳・プライバシーを保持しながら、様々な生活支援技術を科学的な理論とともに習得することを目指している。

内容

1	ガイダンス
2	実習現場における介護技術
3	実習施設種別に応じた介護技術
4	視覚障害に応じた介護 「視覚障害者の生活の理解」
5	視覚障害に応じた介護 「環境整備と食事の支援」
6	視覚障害に応じた介護 「歩行（移動）についての介護技術」
7	聴覚・言語障害に応じた介護 「聴覚・言語障害の理解」
8	聴覚・言語障害に応じた介護 「聴覚障害者のコミュニケーション」
9	聴覚・言語障害に応じた介護 「手話」
10	重複障害（盲ろう）に応じた介護 「盲ろうの理解」
11	重複障害（盲ろう）に応じた介護 「移動についての介護技術」
12	利用者の状態・状況に応じた食事の介護
13	利用者の状態・状況に応じた食事の介護
14	自立に向けた家事の介護
15	まとめ

評価

口頭発表（30%）、実技試験（60%）、授業態度（10%）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。介護コースの必修専門科目である。

科目の概要

感覚機能の低下、運動機能の低下、認知・知覚機能の低下など、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術について学ぶ。

学修目標

日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、利用者の状況に応じた適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、尊厳・プライバシーを保持しながら、様々な生活支援技術を科学的な理論とともに習得することを目指している。

内容

1	ガイダンス
2	在宅における生活支援技術
3	運動機能障害に応じた介護
4	知的障害に応じた介護 「知的障害の理解」
5	知的障害に応じた介護 「知的障害者への支援」
6	在宅実習における生活支援技術
7	精神障害に応じた介護
8	高次脳機能障害に応じた介護
9	高次脳機能障害に応じた介護
10	発達障害に応じた介護
11	重症心身障害に応じた介護
12	認知症のある人に応じた介護
13	認知症のある人に応じた介護
14	認知症のある人に応じた介護
15	まとめ

評価

課題発表（30%）、ペーパーテスト（60%）、授業態度（10%）により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：前期では「基礎介護論」、「生活支援技術概論」「生活支援技術1」を学び、いよいよ様々な場において、展開する介護のプロセスを理解する。また介護実習1を迎えるにあたり、事例や映像、グループワークを活用、利用者をとらえる視点や方法を学ぶ。

科目の概要：個々の利用者の自立を目指し、尊厳を実現するための介護の在り方を理解する。そのため、全体的な利用者像に迫る方法を考える。このための手法として、センター方式やICFの視点等を生かした介護過程の考え方を学ぶ。

修学の目標：

- 1) 個々の利用者の尊厳を実現するための介護視点を育てる。
- 2) 課題を解決するための介護を行うにあたって、専門的プロセスがあることを理解する。
- 3) 利用者理解を深める情報収集の分野とその手法を理解することができる。
- 4) 利用者の願いや思いを手掛かりに支援を進めるストレングスの視点を育てる。

内容

1	オリエンテーション 主役は誰か？
2	介護過程を学ぶ意義～暮らしをとらえる ワークシート1
3	介護過程を学ぶ視点～歴史と文化、暮らしの交わる場所 ワークシート2
4	介護過程を学ぶ方法～こころ、からだ、くらしの視点から考える
5	アセスメントとは～さまざまなアセスメントツール
6	アセスメントとは～こころ、からだ、くらしの視点 利用者の願いや思いを手がかりに
7	ICF形成史
8	ICFの目指すもの 目的と構造 限界
9	ICFの理解と活用
10	映像：在宅生活を送るAさんから学ぶ 「生活問題」を中心に考える
11	映像：在宅生活を送るAさんから学ぶ 「利用者の願いや思い」を手がかりに考える
12	課題解決過程を体験する 1
13	課題解決過程を体験する 2
14	まとめ
15	振り返り

評価

提出物30% 筆記試験70% 60点を合格とする

合格点に達しない場合には再試験を行います

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：介護福祉教育研究会編「楽しく学ぶ介護過程」k u m i

推薦書：澤田信子等編「介護過程」ミネルヴァ書房

参考書：随時授業の中で紹介します

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：前期では「基礎介護論」、「生活支援技術概論」「生活支援技術1」を学び、いよいよ様々な場において、展開する介護のプロセスを理解する。また介護実習1を迎えるにあたり、事例や映像、グループワークを活用、利用者をとらえる視点や方法を学ぶ。

科目の概要：個々の利用者の自立を目指し、尊厳を実現するための介護の在り方を理解する。そのため、どのようにして全体的な利用者像に接近することができるか考える。このための手法として、センター方式やICFの視点等を生かした介護過程の考え方を学ぶ。その際に利用者への視点の自己の偏りに気づき、修正できる力を育てることが必要である。また、利用者がどのような時代を生き抜いてこれ、どのような社会的環境に置かれているのか、さらにどのようにこの時代を生きようとされているのかに共感し、見通す手法を学ぶ。

修学の目標：

- 1) 個々の利用者の尊厳を実現するための介護視点を育てる。
- 2) 課題を解決するための介護を行うにあたって、専門的プロセスを理解する。
- 3) 利用者理解を深める情報収集と分析統合、介護計画の立案手法を理解することができる。
- 4) 利用者の願いや思いを手掛かりに支援を進めるストレングスの視点を育てる。

内容

1	オリエンテーション 実習1 - を振り返る
2	介護過程の概要1 構成と構成要素
3	介護過程の概要2 情報収集 「情報」とはなにか
4	介護過程の概要3 情報の分析統合
5	介護過程の概要4 生活課題の抽出
6	介護過程の概要2 長期目標 短期目標の立案
7	介護過程の概要 具体的な介護 ところ編 暮らし編
8	介護過程の概要 具体的な介護 からだ編
9	介護過程の概要 評価、修正
10	事例検討1 ゲスト講師による事例紹介 情報の収集
11	事例検討1 情報の整理統合
12	事例検討1 生活課題の抽出
13	事例検討1 介護計画の作成
14	まとめ
15	振り返り

評価

提出物 30% 筆記試験 70% 60点を合格とする

合格点に達しない場合には再試験を行います

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：介護福祉教育研究会編「楽しく学ぶ介護過程」kumi

推薦書：澤田信子等編「介護過程」ミネルヴァ書房

参考書：随時授業の中で紹介します

科目名	介護過程展開		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護過程基礎で学んだ1. 介護過程の4つの構成要素 (アセスメント 計画立案 実践 評価・考察)、2. ICF理論について、を基礎とし、介護過程展開 では、事例 (主に高齢者と障害者) によるケアプランの作成と介護過程の展開プロセスの理解を深めることを目的とする。

科目の概要

高齢者の事例を提示し、グループワークを展開しグループ発表を行う。介護保険制度の概要についても理解を深める。

学修内容

3年次の応用介護実習における、個別のケアプランの作成の基礎技能を身に付けることを到達課題とする。

内容

1	オリエンテーション 内 容：事例研究の進め方とグループワークの内容について理解
2	事例1. 高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1. のグループワーク演習実践
3	事例1. 高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1. のグループワーク演習実践
4	事例1. 高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1. グループワーク演習 (発表準備)
5	事例1. 高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1. グループワーク発表
6	事例2. 居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク演習実践
7	事例2. 居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク演習実践
8	事例2. 居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク (発表準備)
9	事例2. 居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2. グループワーク発表
10	事例2. 認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク演習実践
11	事例2. 認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク演習実践
12	事例2. 認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例2. のグループワーク演習 (発表準備)
13	事例2. 認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例2. グループワーク演習実践発表
14	テーマ：高齢者のケアプラン・介護過程総括 内 容：高齢者のケアプラン・介護過程総括
15	まとめ

評価

評価 1. 演習態度、2. 演習発表内容、3. 筆記試験、を総合して評価を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

オリジナル資料の配付。

科目名	発達と老化		
担当教員名	高木 俊治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

授業の到達目標及びテーマ

発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の特徴に関する基礎的知識を習得する。

授業の概要

人間の成長・発達から老化をとらえ、身体面での健康課題を理解できる。

内容

授業計画

1. 人間の成長と発達の基礎的理解 : 胎児の成長・発達(遺伝子、細胞分裂、出生)、疾病、障害、老化、リハビリテーション、死、喪、ライフイベントのまとめ
2. 人間の成長と発達 : 発達の定義・発達段階・発達課題・「発達老化曲線」
3. 老年期の発達と成熟 : 老年期の定義 (WHO)、サクセスフル・エイジング、高齢者の自己選択
4. 老人福祉法、老人保健法の老人医療制度、少子化問題と高齢者のコミュニティー活動
5. 老年期の発達課題 : 人格と尊厳、老いの価値、喪失体験、セクシュアリティ、他
6. 老化に伴うこころの変化と日常生活 :
7. 老化に伴うからだの変化と日常生活 :
8. 高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点 :
9. 高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点 : 高齢者に多い症状・訴えとその留意点
10. 高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点 : 高齢者に多い症状・訴えとその留意点
11. 高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点 : 高齢者に多い病気とその留意点
12. 高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点 : 高齢者に多い病気とその留意点
13. 高齢者と健康 高齢者の疾病と生活上の留意点 : 高齢者に多い病気とその留意点
14. 保健医療職との連携 : チームケア、保健医療職との連携のポイント
15. 全体のまとめ :

評価

学生に対する評価

試験60点 レポート20点 平常点20点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テキスト 新・介護福祉士養成講座 11. 発達と老化の理解 中央法規

参考書・参考資料等 授業時、適宜紹介する。

科目名	発達と老化		
担当教員名	蝦名 直美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 * , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：人間発達について学び、対人援助の際の手掛かりを得る。

科目の概要：心理学の観点から、人間の発達過程を理解する

学修目標：各発達段階でどのような変化が起きるのか、発達を支援するためにはどのようなことが必要か理解する。

内容

1	ガイダンス・発達とは何か
2	発達における遺伝と環境
3	発達段階と発達課題
4	子どもの身体の成長
5	子どもの発達と養育者との関係
6	子どもの認知機能の発達
7	子どものコミュニケーション能力の発達・社会性の発達
8	青年期の特徴
9	青年期に起こりやすい心理的問題
10	成人期の特徴
11	中年期の特徴
12	老年期の認知機能の変化
13	老年期の人間関係
14	老年期のQOLと死
15	まとめ

評価

平常点 (30%)、試験の成績 (70%)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しません。

資料・参考図書は授業中に紹介します。

科目名	認知症の理解		
担当教員名	中島 昭		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：「人間生活学部（J）-人間福祉学科の認知症の理解 - 」は、認知症の基本的な事柄を学習していく。認知症について知らない人はいないだろうが、あまりにも多くの情報が流されており、誤解したり、各人各様の理解となっている。まずは認知症に関する標準的で正しい理解に努めたい。

科目の概要：「認知症とは何か」という医学的な理解から始まり、介護・福祉活動の対応上の留意点、中核症状と周辺症状、家族の心理などを学んでいく。

学習目標：

1. 認知症の種類と病態
 2. 認知症と関連する精神症状
 3. 家族の心理
 4. 介護上の留意点
 5. 介護現場の問題点
 6. 倫理的な問題、法、社会制度上の問題
- などを理解していく。

内容

1	認知症とは何か。加齢のもの忘れと認知症のもの忘れの違いとは。
2	認知症の原因疾患。4大認知症(AD, VD, DLB, FTD)と身体因性の認知機能障害の違い。
3	認知症の中核症状と周辺症状。病態の進行と様々な症状変化。若年性認知症。
4	予防と治療。症状への薬物療法。
5	介護とケアの工夫。環境調節。介護の基本的な考え方と行動。
6	本人の認知症症状と受けとめる家族の問題。症状と家族の心理変化。介護者はどうかかわるか。
7	認知症ケアの歴史、家族意識、社会制度の変遷。認知症の方をとりまく社会状況。
8	症例を考える。小まとめ。
9	認知症と精神症状、うつ、強迫、情緒不安定、摂食障害、性格変化。精神疾患の要点。
10	介護、福祉、保健、医療の連携はどうあるべきか。地域の社会資源の状況。
11	認知症と権利擁護。一人暮らし、高齢者虐待、家族の不和。介護者、医療者の視点。成年後見。
12	認知症と倫理問題。自己決定の揺らぎ。判断力・意思決定能力の低下と代諾の問題。
13	特養や在宅現場で働く介護士らの状況と課題。自分自身をどう支えるか。
14	介護と医療の情報についてのリテラシー。適切な情報と偏った情報をどう読み解くか。
15	まとめ

評価

1. 学習内容に関するレポート50点。国師試験形式の小テスト15点。試験35点。

2.60点以上が合格。60点未満は再試験。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：新・介護福祉士養成講座12 認知症の理解、中央法規。

参考図書：

最新介護福祉全書10 認知症の理解と介護、メヂカルフレンド社。

「認知症とは何か」小澤勲、岩波新書、2005年。

「親のぼけに気づいたら」斉藤正彦、文春新書、2005年。

「高齢者虐待対応・権利擁護実践ハンドブック」大淵修一、法研、2008年。

雑誌：・精神科治療学、星和書店。

・老年精神医学雑誌、ワールドプランニング。

・こころの科学、日本評論社。

科目名	認知症の理解		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護福祉士指定科目

認知症の理解 で得た知識をもとに介護に必要な視点や手法を学ぶ

科目の概要

認知症を患う利用者を介護する視点と手法

家族環境、生活環境、病型、進行レベルによる介護の展開

認知症利用者と介護福祉士のかかわり～ケアする人のケア

家族支援の必要と可能性

認知症予防などを含め地域社会への働きかけ

学修目標

認知症に伴う心と体の変化とその支援の必要性が理解できる

認知症利用者への介護の基礎が理解できる

家族や地域社会への支援の必要性、実際に理解できる

内容

1	オリエンテーション 介護福祉の授業でことさら認知症介護を学ぶわけ
2	映像に見る認知症介護の課題
3	映像に見る認知症介護の歴史と課題
4	本人の思い、支援の視点
5	さまざまな居住環境と生活環境、介護環境（在宅介護か施設介護か？）
6	認知症介護の基本
7	認知症の進行と心と体の変化に見合った介護 ターミナル期のケア
8	家族の思いと支援 家族組織とレスパイとケア
9	中間のまとめ
10	ゲスト講師 介護福祉士・グループホームケアを語る
11	認知症の人の支援に生かす回想法 概要
12	認知症の人の支援に生かす回想法 実際
13	バリデーションケアの理念と実際
14	課題提出・まとめ
15	まとめ

評価

授業目標に沿った課題の提出 20%、授業参加態度 30%、まとめ 50%

合計60%に達しない場合は再試験を実施

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 「認知症の理解」中央法規出版

推薦書：小沢勲 「認知症とは何か」岩波新書

科目名	障がいの理解		
担当教員名	高木 俊治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

授業の到達目標及びテーマ

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

授業の概要

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を理解する。

内容

1. 障害の基礎的理解 障害の概念, 障害の捉え方 (ICFの考え方)
2. 障害者福祉の基本理念, ノーマライゼーション, 国際障害者年の理念
3. 障害の医学的側面の基礎的知識 (「生きていることはどういうことか」を考える)
4. 身体障害, 視覚障害の種類と原因と特性 (身体障害の中で、もっとも社会認知度が高い視聴覚障害の原因と特性、ヘレンケラー状態の理解)
5. 身体障害, 聴覚障害, 言語機能障害種類と原因と特性 (聴覚障害者の言語活動、特に手話教育と口話教育問題、人工内耳の導入、失語症等の高次脳機能障害を含む)
6. 身体障害, 肢体不自由の種類と原因と特性
7. 身体障害, 肢体不自由の種類と原因と特性
8. 身体障害, 内部障害の種類と原因と特性
9. 身体障害, 内部障害の種類と原因と特性
10. 精神障害の種類と原因と特性 (精神疾患の種類、症状、治療、ノーマライゼーションと排除の歴史)
11. 知的障害の種類と原因と特性 (知的障害の種類、原因、自己決断に関して、AAIDD10版を使用して概観する)
12. 発達障害の種類と原因と特性
13. 難病の種類と原因と特性 (難病の種類・原因と特性)
14. 難病の種類と原因と特性 (医学の進歩と限界、新しい試み)
15. 全体のまとめ (医学・医療の知識はどう生かされるか。業務独占の変化)

評価

学生に対する評価

試験60点 レポート20点 平常点20点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テキスト 最新介護福祉全書11 障害の理解 メヂカルフレンド社

参考書・参考資料等 授業時、適宜紹介する。

科目名	障がいの理解		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

1科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける科目であり国家資格取得に必要な科目である。

科目の概要

講義を中心とし、障害を持つ人の特性、生活上の諸問題及び介護上の注意点などについて理解を深める。

学修目標

- ・ 障害を持つ人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。
- ・ 障害を持つ人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。
- ・ 障害を持つ人の立場から、介護の視点を考えることができる。

内容

1	障害の基礎的理解、障害の概念、障害の捉え方
2	障害者の人権、障害者福祉の理念、ノーマライゼーション、国際障害者年の理念
3	障害を持つ人の心理、障害が及ぼす心理的影響
4	障害の受容・適応と適応規制
5	視覚障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
6	聴覚障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
7	言語機能障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
8	肢体不自由に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
9	内部障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
10	精神障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
11	知的障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
12	発達障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
13	難病に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
14	連携と協働、地域におけるサポート体制及び家族への支援
15	まとめ

評価

試験60点 レポート20点 平常点20点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

介護福祉士養成講座編集委員会「新・介護福祉士養成講座 13 障害の理解」中央法規
推薦書・参考書等は随時紹介する。

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間は本来、日々の生活を安全・安楽に過ごすために傷や病気からの回復、外敵からの防御機能などを備えている。この人間の基本的なこころとからだのしくみについて学ぶ。また加齢や障害により生じた生活への支障に適切に対応するためにも、基本的しくみの理解をし、生活支援技術の根拠を考え、応用できるようにする。それにより利用者自身の可能性を見出し、尊厳ある生活支援をめざすものである。

内容

1	ガイダンス、「健康とは」について考えよう
2	こころとからだのつながりの理解
3	第3章「身じたく」に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識
4	機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響、変化の気づきと医療職との連携
5	第4章「活動」に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識
6	活動と生活動作、活動の低下・障害が活動に及ぼす影響、
7	活動に関する変化の気づきと医療職との連携
8	第5章「食事」に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識
9	消化と吸収 機能の低下・障害が食事に及ぼす影響
10	安全な食事のための留意点
11	第7章「排泄」に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識
12	排泄の意義としくみ
13	排泄のしくみが乱れる機能の低下・障害
14	排泄に関する変化の気づきと医療職との連携
15	まとめ

評価

学習状況・レポート提出状況 (40%)、ペーパーテスト (60%) により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

最新介護福祉全書 1 2 「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	中村 幸子、高世 秀仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間は本来、日々の生活を安全・安楽に過ごすために傷や病気からの回復、外敵からの防御機能などを備えている。この人間の基本的なこころとからだのしくみについて学ぶ。また加齢や障害により生じた生活への支障に適切に対応するためにも、基本的しくみの理解をし、生活支援技術の根拠を考え、応用できるようにする。それにより利用者自身の可能性を見出し、尊厳ある生活支援をめざすものである。

内容

1	第6章「入浴、清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ	基礎知識
2	入浴、清潔保持の実際	
3	機能低下や障害が「入浴、清潔保持」に及ぼす影響	
4	「入浴、清潔保持」における変化の気づきと医療職との連携	
5	第8章「睡眠」に関連したこころとからだのしくみ	基礎知識
6	生活習慣と睡眠	
7	高齢者の睡眠障害	
8	「安楽」に関連したこころとからだのしくみ	安楽の生理的意味
9	安楽、リラックス、爽快感を感じるしくみ	
10	第9章「死にゆく人のこころとからだのしくみ」	「死」の捉え方
11	終末期から危篤、死亡時のからだの理解	
12	「死」に対するこころの理解、「死」の受容段階	
13	家族、医療の実際と介護の連携	
14	介護の現場から ~ ゲスト講師 ~	
15	まとめ	

評価

学習状況・レポート提出状況 (40%)、ペーパーテスト (60%) により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

最新介護福祉全書 1 2 「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

科目名	社会福祉基礎実習		
担当教員名	太田 真智子、大山 博幸、栗原 直樹、片居木 英人 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

社会福祉の実践現場を学ぶ上での基本的姿勢、基本的態度を形成することを目的とし、社会福祉実習の入門的位置づけである。

内容

- 1 社会福祉の現場を学ぶ上での基本的な姿勢を形成する。
必要な社会的スキル（あいさつ、マナー、身だしなみ等）、実習に参加するための手続き（現場の状況に適した服装や立ち振る舞い等）
- 2 社会福祉を学ぶモチベーションを形成する。
- 3 児童、障害、高齢者の主な分野を理解する。
- 4 福祉施設、行政機関等の概要を理解する。
- 5 利用者とのコミュニケーションについての基礎技術を学ぶ。
- 6 施設等における見学、体験実習を行う。
- 7 将来の実習イメージを形成する。

評価

授業における実習取組態度、実習記録、及びレポート等をもとに評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学科で作成したものを使用する。

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、栗原 直樹、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事前学習の成果として実習課題を作成することができる。

内容

1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	相談援助にかかわる知識と技術に関する理解
3	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解1
4	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解2
5	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解3
6	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解4
7	実習課題 (目標) と実習計画作成の方法 1
8	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 1
9	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 2
10	「実習記録ノート」への具体的記述方法と管理の仕方
11	個人情報保護と守秘義務の理解
12	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 1
13	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 2
14	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成 3
15	まとめ、実習に向けての確認

評価

事前学習の成果である事前報告書 (40%) や実習後の事後報告書の提出及び実習報告会での報告 (60%) を求める。それらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科目名	介護総合演習		
担当教員名	野島 靖子、中村 幸子、宮内 寿彦、新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「介護総合演習」に関する科目の1つであり、介護コースの必修専門科目である。主として介護実習 に対応し、実習と組み合わせた学習である。

科目の概要

1. 介護実習の教育効果を上げるため、実習に必要な知識や技術について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。
2. 介護実習 における実習の意義について理解する。
3. 実習前・中・後に及ぶ介護実習のプロセスを理解する。
4. 介護実習 - 1 から介護実習 - 2 まで介護実習全体の学びを理解する。

内容

- 1 介護実習とは何か
- 2 介護実習の実際、必要な知識と技術について
- 3 介護実習 の実習先の理解
- 4 介護実習におけるコミュニケーションマナー
- 5 介護実習の課題（目標）の立て方
- 6 介護実習の実習計画の立て方
- 7 介護実習における記録の書き方
- 8 介護実習に向けたグループ指導
- 9 介護実習前報告会（介護実習 ）
- 10 実習中の指導（巡回指導）
- 11 実習事後指導
- 12 実習報告会

評価

課題レポート、実習に関する記録物、教員との面接により、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版

学内作成「実習の手引き」及びオリジナル資料配布

科目名	介護総合演習		
担当教員名	宮内 寿彦、野島 靖子、中村 幸子、新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

介護福祉士コース必須専門科目。介護総合演習 の履修・単位認定が前提となる。

科目の概要

介護実習 - 1 及び - 2 の実習事前学習及び事後指導を行う。

概要は内容を参照。

学修目標

実習計画を作成し、配属実習施設の概要と理解を図る。

介護過程の展開方法について理解を図る（アセスメント方法の理解と実施）。

内容

内容

1．介護実習 - 1

実習事前指導 4 コマ

- ・実習オリエンテーション
- ・配属施設の概要と理解
- ・実習計画書の作成

実習事後指導 4 コマ

- ・実習記録物の確認
- ・担当教員とのスーパービジョン
- ・実習報告会
- ・3年生 介護実習報告会参加

2．介護実習 - 2

実習事前指導 5 コマ

- ・実習オリエンテーション
- ・配属施設の概要と理解
- ・実習計画書の作成

実習事後指導 2 コマ

- ・実習記録物の確認
- ・担当教員とのスーパービジョン

評価

評価 記録物、教員との面接、実習施設による評価、自己評価等による総合評価。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学内作成「実習の手引」・オリジナル資料配付

科目名	介護実習		
担当教員名	野島 靖子、中村 幸子、宮内 寿彦、新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「介護実習」に関する科目の1つであり、介護コースの必修専門科目である。

科目の概要

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。

学修目標

- 実習 - 1 ・高齢者介護等に関わる在宅生活支援事業の概況を理解する。
 ・地域における在宅支援事業の役割と課題を理解する。
- 実習 - 2 ・特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者施設等の入所施設の概況と利用者の生活について理解する。
 ・入所施設における基礎的な介護技術を学ぶ。

内容

実習施設・事業 に区分される事業での学外施設実習である

実習 - 1 合計5日間 (40時間) 1年生後期
 認知症対応型共同生活介護 小規模多機能型居宅介護 デイサービスセンター等

実習 - 2 合計7日間 (56時間) 1年生後期
 特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者支援施設等の入所施設

評価

実習状況、記録物、教員との面接、実習施設による評価、自己評価などにより、総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版

学内作成「実習の手引き」及びオリジナル資料配布

科目名	介護実習 -1		
担当教員名	宮内 寿彦、野島 靖子、中村 幸子、新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士コース必須専門科目。介護実習 の履修・単位認定が前提となる。

科目の概要

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。

個別ケアを行うためのこの生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。

学修目標

実習計画に基づき、規定の実習日数を実施。

科目の概要について、配属実習先で専門的スキルを習得する。

内容

内容 [授業全体の内容の概要]

- ・実習施設・事業等 の学外施設実習(合計6日間)
- ・実習施設・事業等 の学外施設実習(合計17日間)

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践ができる。

介護職の業務の流れが理解できる。

多職種協働の実践ができる。

個別ケアを理解するため、介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護福祉士としての一連の介護過程の実践ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

実習施設・事業等 に区分される事業所での学外施設実習

・2年生 前期 在宅介護事業所、訪問入浴事業所等

合計6日間(48時間)

実習施設・事業等 に区分される事業所での学外施設実習

- ・ 2 年生 後期 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の入所施設
合計 17 日間 (136 時間)

評価

評価 実習記録物、教員との面接、実習施設による評価、自己評価による総合評価。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

学内作成「実習の手引」・オリジナル資料配付

科目名	児童・家庭福祉特論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1 現代社会における子ども・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（ひとり親家庭、こども虐待、DV、地域における子育て支援等）と実際を理解する。
- 2 子ども・家庭制度の発展過程を理解する。
- 3 子どもの権利（子どもの最大の利益を実現する視点）を理解する。
- 4 社会的養護、子ども虐待の現状を理解する。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢（少子化、少年非行、家庭養育機能等）
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利（児童福祉法、児童の権利に関する条約等）
5	母子保健
6	障害児
7	保育
8	ひとり親
9	非行児童
10	いわゆる情緒障害児
11	社会的養護の現状（施設等）
12	社会的養護の現状（里親、養子縁組等）
13	子ども虐待の現状と課題（児童相談所と法的課題）
14	子ども虐待の現状と課題（家族再統合などの支援）
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。但し、60点に達しない場合には再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業において資料提供する。

参考図書 社会福祉六法

科目名	社会調査の応用		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

選択科目であるが、内容的に前期「社会調査の基礎」を履修したうえで、本科目を履修することが望ましい。調査テーマを設定し社会調査の企画・実施・結果の分析・報告等のシュミレーションを行う。授業中の発表と討論を重視する。学修目標は以下の通り。1) 社会調査の知識・技法にもとづいて、現代社会を深く理解することをねらいとする。2) 福祉の間接援助技術としての社会福祉調査の特徴を理解する。3) 社会調査の成果と限界を理解する。

内容

履修人数によって、発表・報告の方法が異なることがある。

1	社会調査の意義と役割
2	調査テーマの目的と既存データの活用
3	調査テーマの設定
4	調査テーマの発表と討論
5	調査企画書の作成とプレゼンテーション
6	調査票の作成と実施
7	調査票の作成と実施
8	調査票の作成と実施
9	調査結果の集計・分析手順
10	調査結果の集計・とりまとめ方法
11	調査結果のプレゼンテーションと討論
12	調査結果のプレゼンテーションと討論
13	調査結果のプレゼンテーションと討論
14	レポートの作成
15	まとめ

評価

発表・報告 (1 割)、授業中の課題 (2 割)、最終レポート (6 割)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書：森岡清志編著「ガイドブック社会調査」第2版、日本評論社、2007

根本博司他編著「初めて学ぶ人のための社会福祉調査」中央法規

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座5社会調査の基礎」中央法規

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：心理学を学ぶ上で、当事者の暮らしや支援の理解に欠かせない社会福祉の学修として位置付ける。人間が社会的な存在である以上、こどもから高齢者に至るすべてのライフステージで心身の健康が損なわれる機会がある。とりわけ精神疾患を患うことで社会的な不利がもたらされ、度重なる人生の危機にさらされやすい。社会的な制度の立ち遅れや社会的偏見の歴史から、その原因を探り、支援に係る専門職の役割を学ぶ。中でも第二次世界大戦後、歴史的に形成されてきた当事者こそが「その人」の専門家であるという視点を軸に据える。

科目の概要：まず、精神保健福祉の意義、精神障がい基礎知識、精神保健福祉の歴史的社会的背景、精神保健福祉制度の概要について理解する。ついで、生活の場及びライフサイクルにおける精神保健福祉の実践的役割や多様な支援手法を学ぶ。また、当事者ゲスト講師による地域での固有の実践を共有する。

- 学修の目標： 1 精神保健福祉の意義・制度及び歴史的形成過程の理解。
 2 我が国の精神障がい者の暮らしの実態の理解。
 3 当事者主体の支援視点の形成。

内容

1	精神保健福祉に課せられていること
2	精神保健福祉の歴史
3	精神疾患の理解 (1) 主な疾患とその対応
4	精神疾患の理解 (2) 統合失調症とその回復
5	精神保健福祉法の理解
6	精神保健福祉援助技術の理解
7	生活保護法と退院促進事業の展開
8	家族支援とその課題
9	自殺・災害への精神保健福祉からの取り組み
10	精神保健福祉士の実践事例検討 1
11	精神保健福祉士の実践事例検討 2
12	当事者からのメッセージ (1) A A
13	当事者からのメッセージ (2) 大宮・やどかりの里から
14	振り返り・課題提出
15	まとめ

評価

課題の提出 20%、授業参加態度 30%、最終試験 50% で評価します 60% に達しない場合には再試験を行います

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野末浩之「こころ・からだ・暮らし」精神障害者の理解と地域支援 萌文社

【推薦書】大熊一夫「精神病院を捨てたイタリア、捨てない日本」岩波書店

藤本豊編「よくわかる精神保健福祉」ミネルバ書房

野中猛「精神障害リハビリテーション」中央法規

参考図書は随時授業で紹介します

科目名	ボランティア・コーディネーション		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を基本としてとらえる。他の科目として「市民活動論」と関連性がある。講義は、ボランティアに関する知識と推進するための技術としてコーディネーション力を、具体的実践事例を交えながら理解することを内容とする。学修目標は、1. ボランティアについて理解する。2. ボランティアコーディネーションについて理解する。3. ボランティアコーディネーターについて理解する。

内容

1	はじめに ボランティア-自らの学びの経験をもとに-
2	豊かに生きていく上で必要なボランティア
3	ボランティアとは何か
4	ボランティアの理解1
5	ボランティア活動の実際
6	ボランティアの理解2
7	ボランティア活動の意味
8	ボランティアのとらえ方1
9	ボランティアのとらえ方2
10	ボランティア活動の課題
11	コーディネーションについて
12	ボランティアコーディネーションの理解
13	ボランティアコーディネーションとボランティアコーディネーター
14	ボランティアセンターとボランティアコーディネーター
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30%)、学修目標に基づく試験(60%)、通常の授業態度(10%) 60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テキスト

日本ボランティアコーディネーター協会編『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』筒井書房

科目名	市民活動論		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

選択科目

市民が行う自由な社会貢献活動を促進する法律として特定非営利活動促進法が成立したのは1998年である。多様な生活問題の解決にあたって民間非営利団体（NPO・NGO）の貢献する範囲は広がっている。統計などによって見えている部分のごくわずかであるということから「氷山のようなセクターである」といわれた民間非営利領域、およびその主体である民間非営利団体について、さまざまな議論や実践とともに研究も深まりつつある。多様な非営利団体を対象に、現在の私たちの社会におけるその実態と可能性を検討する。講義だけでなく、受講生全体の参加による議論・検討を重視する。

民間非営利団体の現状をふまえて、社会における市民の役割を理解する。

内容

1	生活主体と公共私領域 - NGO・NPOの誕生
2	NPOと非営利革命
3	NPOセクターの国際比較
4	ミッションとプロフィット
5	わが国のNPOを取り巻く制度と環境
6	NPOの活動事例 - 教育・文化・スポーツの分野
7	NPOの活動事例 - 医療・福祉の分野
8	NPOの活動事例 - 地域振興・環境問題の分野
9	NPOの活動事例 - 人権・平和・国際協力の分野
10	NPOの活動事例 - NPOの支援を行なうNPO
11	NPOの多様性とその課題
12	NPOにおける寄付とボランティア
13	NPOのマネジメント
14	NPOの展開と市民社会の可能性
15	レポート報告と講評

評価

事例発表・討議への参加態度（3割）、期末レポート（7割）として採点し、60点以上を合格とする。再試験は行わない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：NPO研究フォーラム『NPOが開く新世紀』清文社 335.8/N

山内直人編『NPOデータブック』有斐閣 335.8/Y

大畑裕嗣他『社会運動の社会学』有斐閣選書

目加田説子『行動する市民が世界を変えた』毎日新聞社

科目名	ケア論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ケアリングの理論とそれに関連する思想の理解を深める。対人援助職の基本姿勢、態度の形成を目的とする意味では本授業は社会福祉基礎科目として位置づけられる、本科目は社会福祉の ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探究していくことをねらいとする。また近年注目されているスピリチュアリティの概念をはじめとした超越性とケアリングとの関連、及びケアリングと癒し (ヒーリング) の関連についても考察していく。 ケアリング概念について説明記述でき、ケアリングそれに関連するテーマや思想的背景について独自の意見を述べるができる。

内容

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケアの語源、関連する概念
3	根源的なケア経験、ケアの動機 (ロロ・メイ、鷺田を例として)
4	メイヤロフのケアリング論 (概要)
5	メイヤロフのケアリング論 (展開1)
6	メイヤロフのケアリング論 (展開2)
7	事例から学ぶケア1：『プロフェッショナル 認知症ケア』を観て
8	ターミナルケア：広井のケア学
9	ターミナルケア：キューブラロス、ミンデルの事例から
10	ケアリングとヒーリング (概要)
11	ケアリングとヒーリング (展開1)：映画『千と千尋の神隠し』から
12	ケアリングとヒーリング (展開2)：ケイローンの神話から
13	対人援助職におけるケアの実践：基本的介護技術の実践、ホリスティック福祉への試論
14	ケアリングとスピリチュアリティ：ホリスティック理論との関連、WHOでの議論
15	授業のまとめ

評価

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】は使用しない。資料は授業中に配布

【推薦書】

メイヤロフ『ケアの本質』ゆみる出版

モンゴメリー『ケアリングの理論と実践 コミュニケーションによる癒し』医学書院

佐藤学『学びと死と再生』太郎次郎社

谷山洋三 『仏教とスピリチュアルケア』 東方出版

科目名	福祉住環境論		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

わが国の総人口は、2000年には約1億2千7百万人に達し、そのうちの約17%が65歳以上の高齢者である。今後、急速に少子高齢化が進展することはよく知られるところであるが、少子高齢化社会の到来は、年金、雇用、医療、保険等、生活のあらゆる場面での多くの問題を抱えている。このような変革の時代に高齢者や障害者が地域社会で自立した生活を継続できるように社会全体で支援することが重要となる。

高齢者や障害者が自立した生活をおくるために、その重要な課題のひとつに生活拠点としての住宅の問題がある。超高齢社会の到来を踏まえて、日本の住宅の抱える問題点を考え、住環境整備を進めるための基礎知識や基礎技術について理解を深めるものである。

但し、使用する機材があるため、人数に制限あり。

内容

1	現代の住生活環境
2	100年前の暮らしと現代の暮らし
3	安全・快適な住まいについて
4	バリアフリーとユニバーサルデザイン
5	安全・快適な住まい（屋外移動）
6	安全・快適な住まい（屋内移動）
7	安全・快適な住まい（水回り）
8	安全・快適な住まい（清掃・洗濯・調理）
9	安全・快適な住まい（起居・就寝）
10	安全・快適な住まい（妊婦・子どもに対する配慮）
11	ライフスタイルの多様化と住まい
12	高齢者や障害者に対応した住宅・住環境整備
13	少子化社会に対応した住宅・住環境整備
14	人にやさしいまちづくり
15	まちづくりを進めるための諸法制度

評価

授業に対する意欲・関心・態度30点、及び随時の課題やレポートによる評価70点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『福祉住環境コーディネーター検定試験（3級テキスト）』

その他、授業の中で適時参考文献を配布・紹介する。

科目名	レクリエーション援助法		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、人と人との出会いや人とのつながりにおいて、とても意味のある科目です。特に、社会福祉サービスにおいてレクリエーションの果たす役割は大きく、重要と言えます。ここでは、社会福祉サービスにおけるレクリエーションの意味と、人々への日常的な楽しさや心地よさを提供する援助者としての役割について学んでいきます。また、援助者が身につけるためのコミュニケーション技術としてアイスブレイキングやホスピタリティ (心地よさ・人間関係能力) を演習します。これらは、介護コースの科目であるレクリエーション活動援助法につながる、基本的な学修と言えます。

学修目標は、下記の5点です。

1. 人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深める。
2. レクリエーションは、健康づくりをはじめ社会福祉や教育、地域づくり、環境に至るまで幅広い領域で活用されていることを理解し、援助者としての役割を学修する。
3. ノートやファイルなどを有効に活用し、資料作成を行うと共に、毎時間ごとのふりかえりや記録をとることの重要性を理解する。
4. レクリエーションにおけるホスピタリティについて理解し、姿勢・態度・行動を身につける。
5. コミュニケーション技術に必要な素材やアクティビティを体験し、人前で提供出来るようになる。

内容

1	はじめまして 出会いの喜び アイスブレイキングの体験プログラム
2	レクリエーションの意義
3	レクリエーションと社会福祉について
4	レクリエーションの支援 利用者と援助者のあり方について
5	福祉レクリエーション援助のプロセス
6	福祉レクリエーション援助のための技術と方法 アクティビティの実際
7	援助者のためのコミュニケーション技法
8	個別レクリエーション援助の立案と方法
9	集団を介したレクリエーション援助の方法
10	レクリエーション援助におけるホスピタリティの重要性
11	地域とレクリエーションの取り組み
12	プログラム計画と展開法
13	対象に合わせたプログラム作り
14	プログラムのアレンジ法
15	まとめ

評価

課題・レポート20% 演習発表20% 筆記試験40% 授業態度20% 60点以上を合格とします。合格点に満たな

かった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は、特に使用しない。必要に応じてプリントを配布。

推薦書 福祉士養成講座編集委員会編集 新版 介護福祉士養成講座 第3版 レクリエーション活動

援助法 中央法規出版 (財)日本レクリエーション協会監修 福祉レクリエーションシリ

ーズ 全3

巻 中央法規出版

ホスピタリティをみかく本 ホスピタリティトレーニング研究会 遊戯社

参考図書 レクリエーション支援の基礎 財団法人 日本レクリエーション協会

その他必要に応じて、随時教室で紹介する

科目名	介護基礎（入門）		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：心理学を学ぶ上で、当事者の暮らしや支援の理解に欠かせない社会福祉の学修として位置付ける。人間が社会的な存在である以上、こどもから高齢者に至るすべてのライフステージで心身の健康が損なわれる機会がある。とりわけ精神疾患を患うことで社会的な不利がもたらされ、度重なる人生の危機にさらされやすい。社会的な制度の立ち遅れや社会的偏見の歴史から、その原因を探り、支援に係る専門職の役割を学ぶ。中でも第二次世界大戦後、歴史的に形成されてきた当事者こそが「その人」の専門家であるという視点を軸に据える。

科目の概要：まず、精神保健福祉の意義、精神障がい基礎知識、精神保健福祉の歴史的社会的背景、精神保健福祉制度の概要について理解する。ついで、生活の場及びライフサイクルにおける精神保健福祉の実践的役割や多様な支援手法を学ぶ。また、当事者ゲスト講師による地域での固有の実践を共有する。

- 学修の目標：1 精神保健福祉の意義・制度及び歴史的形成過程の理解。
 2 我が国の精神障がい者の暮らしの実態の理解。
 3 当事者主体の支援視点の形成。

内容

1	オリエンテーション 介護に起訴は当事者の暮らしの理解とコミュニケーション
2	介護を必要とする人々の暮らしの理解 介護福祉の諸分野
3	支援技術の価値とその視点 1 ICFの視点、当事者主体、生活文化の視点
4	支援技術の価値とその視点 2 支援技術に見る当事者体験
5	介護支援技術の基礎 1 自立に向けた居住環境福祉の視点
6	介護支援技術の基礎 2 寝室の整え
7	介護支援技術の基礎 3 安楽の体位
8	身支度の支援技術1 利用者の尊厳を支えるアセスメント
9	身支度の支援技術2 衣服の選択・着脱の支援
10	家事支援技術 1 在宅介護の法制度と諸分野
11	家事支援技術 2 移動・車いすの活用
12	介護とレクリエーション支援 1 期待される諸分野
13	介護とレクリエーション支援 2 さまざまな障害を持つ当事者体験
14	振り返り
15	まとめ

評価

提出物30点 筆記試験70点 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：柴田範子「生活支援技術1」ミネルヴァ

推薦書：井上千津子編「介護の基本」ミネルヴァ

社会福祉法人共同福祉会「介護の基本」クリエイツかもがわ

科目名	介護基礎（応用）		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間の自然なからだの動きを理解し、身体機能の低下や障害が、日常生活に与える影響を理解する。

さらに援助を要する人の自立・自律を尊重した、安全かつ適切な介護技法について理解するとともに、尊厳を支える介護について実践をめざす。

内容

1	ガイダンス、介護技術を学ぶ意義
2	介護者の健康管理：健康な心身と生活について理解する。ボディメカニクスの活用
3	移動の意義と目的、移動に関するアセスメント、ICFの視点、
4	移動介助の技法・留意点
5	食事の意義と目的、食事に関するアセスメント、介護技術の原則
6	食事介助の技法および誤嚥時の対応
7	入浴・清潔保持の意義と目的、入浴・清潔保持に関するアセスメント・ICFの視点、
8	入浴・清潔保持の技術の原則、介助・清潔保持の介助の技法・留意点
9	排泄の意義と目的、排泄に関するアセスメント、技術の原則
10	排泄介護の技法・留意点（オムツの適切な活用法）
11	睡眠の意義と目的、睡眠に関するアセスメントとICFの視点
12	睡眠に関する介護技術
13	終末期における介護の意義と目的、高齢者の尊厳を支える介護
14	終末期介護の基礎知識
15	まとめ

評価

試験60点,レポート20点,平常点20点, 60点以上合格

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

柴田範子編 介護福祉士養成テキストブック「生活支援技術」ミネルヴァ書房

科目名	福祉機器論		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は人間福祉学科の専門科目であり社会福祉展開科目の選択科目である。

この授業では、福祉用具全般の取り扱い方と介護技術について知識と技術の双方を深めるものである。福祉用具にはいわゆる自助具から義肢・装具まで非常に幅広いものとなっている。特に身体介助で使用する福祉用具に関する知識と使用方法を教授する。

授業は演習形式で行い、場所は介護実習室を利用する。福祉用具に関する知識は講義で行い、使用方法については実際に演習を行う。演習に際しては、学生を5名×8グループに分けて行う。技術の習得を目的とした授業であるから、知識と技術の双方を幅広く習得することが重要である。

- ・身体介護に使用する福祉用具を理解する
- ・自助具の使用法と介護技術の関連を理解する
- ・補装具・杖などの使用法と介護技術の関連を理解する
- ・トランスファーに使用する機器に関する知識と操作ができる

内容

オリエンテーション

まとめ

1	オリエンテーション
2	福祉用具に関する法的な規定（1）介護保険法と福祉用具の歴史と種類について
3	福祉用具に関する法的な規定（2）障害者自立支援法と福祉用具の歴史と種類について
4	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・ベッド周辺
5	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・移動
6	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・排泄
7	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・着替え、身だしなみ
8	トランスファーを補助する用具と使用方法 さまざまなリフター
9	移動を補助する用具と使用方法 さまざまな車いす
10	移動を補助する用具と使用方法 杖・シルバーカー等
11	会話を補助する用具と使用方法 コミュニケーションツール
12	廃用症候群を予防する用具と使用方法 褥瘡の予防
13	廃用症候群を予防する用具と使用方法 拘縮・変形の予防
14	福祉用具の動向と課題
15	まとめ

評価

中間試験（資料等持ち込み可）、定期試験の結果（40点×2回）、レポート（10点×2回）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じてプリント配布する。推薦書はその都度紹介する。

科目名	ユニバーサルデザイン論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする福祉機器論よりも、対象を情報機器に分野を絞った科目になる。また、心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。本科目では、特にマニュアルを取り上げ、有効なマニュアルの条件について考察したい。

学修目標 わかりやすく、読んでみたくなる、具体的なマニュアルを作成したい。実際に作成する過程で、わかりやすい表現をすることが難しいことを理解してほしい。

内容

1	オリエンテーション
2	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (1) 情報の部分性
3	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (2) 言語
4	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (3) 記憶
5	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (4) 情報検索
6	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (5) 視覚
7	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (6) 聴覚
8	人間の心理過程と情報機器の情報処理 (7) 触覚
9	情報機器を使うことの難しさ (1) ヒューマンエラー
10	情報機器を使うことの難しさ (2) ユーザが自分の責任にしがちである現状
11	情報機器を使うことの難しさ (3) メニュー、アイコン、専門用語
12	情報機器を使うことの難しさ (4) 学習の停滞
13	情報機器を使うことの難しさ (5) プロダクションパラドックス
14	マウスやキーボードの使い方を説明する、実際のマニュアル作成をする
15	まとめ

評価

毎回提出してもらってレポート、150点満点 (15回X10点満点) で、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間福祉学科専門科目の社会福祉展開科目に位置づけられている。また、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。他学科開放科目としている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を発揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復も図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

学修目標：

1. リハビリテーションの理念が理解できる。
2. 障がいの受容プロセスが理解できる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLが理解できる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
5. 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

1	リハビリテーションの理念
2	リハビリテーションの目的と対象
3	障がいとリハビリテーション
4	障がいの受容過程とQOL
5	死別とグリーフワーク
6	ライフサイクルとリハビリテーション
7	子どものリハビリテーション 心身障がい児の基礎知識
8	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション 広汎性発達障害と学習障害
10	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	施設におけるリハビリテーション
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（20点）、レポート（20点）、筆記試験（60点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには 』 中央法規 492.9/R

科目名	民法入門		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間福祉学科の学科専門科目として位置付けられている。

科目の概要

民法は個人の衣食住にかかわる基本的なルールであり、「市民の法」「市民の権利・義務」を理解する上で不可欠かつ最も重要な法律である。ビジネス関係の法律、消費者保護の法律、家族関係の法律など各種の法律は民法を基礎としている。この民法の基礎的知識の習得と、法的思考力の身につけることを目的とする。民法には、契約や不法行為を取り扱う債権法のほか、物権・担保物権、親族法・相続法が含まれるが、この科目ではとりわけ、家を借りる、洋服を買う、誕生日プレゼントをするといった身近な行為に関係の深い民法の債権法を中心に取扱う。

科目の目的

身近な「契約」という行為がどのような法的な意味内容をもつものかを中心に学び、民法・債権法の基本的な理解を図ることを目的とする。

内容

1	債権法のガイダンス及び契約の成立
2	契約の効力： 同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約
3	契約の解除： 解除の要件・効果、消費者保護とクーリングオフ
4	契約各論(1)： 贈与契約 - 意義・成立・効力・特種の贈与
5	契約各論(2)： 売買契約 - 意義・成立・効力
6	契約各論(3)： 売買契約 - 買戻しについて
7	契約各論(4)： 交換・消費貸借・使用貸借
8	契約各論(5)： 賃貸借契約の意義・期間・効力
9	契約各論(6)： 雇用・委任・その他の典型契約
10	契約以外の債権発生原因(1)： 事務管理・不当利得
11	契約以外の債権発生原因(2)： 不法行為
12	債権の効力： 強制執行・債務不履行・損害賠償・受領遅滞
13	多数当事者の債権関係： 連帯債務・保証債務
14	債権の消滅： 弁済・代物弁済・相殺他
15	総括

評価

提出物・受講態度(40点)、ペーパーテスト(60点)を、総合して評価する。100点満点中60点が単位取得の下限である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】『スタートライン債権法』[第5版] 池田真朗（日本評論社）

【参考書】『デイリー六法』（三省堂） その他の六法でも可

科目名	家族生活論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間生活の基本単位である家族という小集団と、そこでの人間関係の特徴を理解する。家族は、男女が結婚することによってつくり、子どもの誕生によって成員を増やし、やがて子どもが独立することで規模を縮小し、最後は老夫婦のいずれか一方の死によって消滅するという、ライフサイクルを持っている。ライフサイクルのそれぞれのライフステージには、それぞれの生活課題がある。近年、わが国では未婚晩婚化、晩産化が進み、ライフサイクルの平均像が大きく異なっている。本科目では、家族形成のあり方、家族の構造と機能について、その基本的な捉え方を学ぶとともに、その今日的な変化を実証的に確認する。

内容

1	家族の捉え方 1 : 家族の定義
2	家族の捉え方 2 : 家族と世帯
3	家族の形態 1 : 核家族
4	家族の形態 2 : 家族の種類と分類
5	家族の形態 3 : 家族構成の変化
6	結婚 1 : 異性交際と配偶者選択
7	結婚 2 : 結婚の意味と機能
8	結婚 3 : 結婚の変化
9	家族発達 1 : 家族のライフサイクル
10	家族発達 2 : ライフサイクルの変化
11	家族の内部構造 1 : 家族の役割構造と勢力構造
12	家族の内部構造 2 : 家族の情緒構造
13	家族の機能 1 : 子どもの社会化
14	家族の機能 2 : 老親扶養
15	総括

評価

学期末のペーパー試験 (70%) と授業時の課題 (30%) によって評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

湯沢雅彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』NHKブックス、2008。

野乃山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009。

科目名	生活構造論		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

生活とコミュニティ (地域社会) について、生活構造論からアプローチする。そもそも生活とは多義的な概念であるため、生活構造論は多様である。しかしその基本は、個人または家族の生活状況から社会構造を捉え直そうとする、つまり生活者 (個人や家族) の主体性に着目している点で共通している。都市化・産業化によって人々の生活水準は向上したが、それは格差社会をつくりだすことにも繋がった。また、生活の質についてはどうであろうか。この科目では、官庁統計や社会調査のデータを用いて、生活者が置かれている生活状況 (生活水準、生活時間、生活空間、生活関係) を確認するとともに、地域社会における生活者の主体形成のありかたを考察する。

内容

1	生活構造 1 : 生活構造論とは
2	生活構造 2 : 生活の指標
3	生活水準 1 : 家族周期と家計構造
4	生活水準 2 : 消費行動とライフスタイル
5	生活水準 3 : 階層・階級と格差社会
6	生活時間 1 : 生活時間の構造
7	生活時間 2 : ワークライフバランス
8	生活空間 1 : 過疎問題
9	生活空間 2 : 開発と住民運動
10	生活空間 3 : 都市問題
11	生活関係 1 : 自治会・町内会
12	生活関係 2 : 社会的ネットワーク
13	生活関係 3 : ボランティア活動
14	生活関係 4 : コモンズとまちづくり
15	総括

評価

授業時の課題 (40%) と学期末のレポート (60%) によって評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】

三浦典子、森岡清志、佐々木 衛 編 (1986) 『生活構造』 (リーディングス日本の社会学 5) 東京大学出版会。

堤マサエ、徳野貞雄、山本 努 編著 (2008) 『地方からの社会学』学文社。

科目名	家族と労働法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

女性の家庭生活および職業生活に関わる法律を取り扱います。具体的には民法家族法（親族・相続）の基礎を学び、働く女性を取り巻く環境と法律・制度との関わりについて検討することになります。

現代の日本社会においては、個人の価値観が多様化し、それに伴い家族生活も多様化しています。これは夫婦別姓、シングルマザー、離婚の増加に現れている通りです。また、少子高齢化の進行は今までにない新しい家族の問題を生んでいます。子のない夫婦の養子縁組や生殖補助医療で子どもをもつことには、親子についての法的な課題も生じます。認知症で判断力の弱った高齢の親の財産関係については、新しく成年後見制度が設けられました。また、家庭を持ちながら働く上でライフ・ワーク・バランスという考え方も注目されてきています。女性が家庭生活と職業生活を営む上で法律の果たす機能と、課題についても考察します。

この授業では、家族法の基礎知識の習得をし、現代の職業人が家族生活を営む上で課題をめぐる法制度状況について理解を深めることを目的とします。

内容

1	家族問題と法
2	婚姻と法
3	婚姻と財産
4	離婚と法
5	離婚と財産と子ども
6	親子
7	内縁と認知
8	家族法の現代的問題
9	氏と戸籍
10	扶養・成年後見
11	相続 相続人と相続財産
12	相続 法定相続
13	遺言・遺留分
14	働く女性と法
15	総括

評価

提出物・受講態度（50点）、ペーパーテスト（50点）を総合して評価します。

100点満点中60点が単位取得の下限です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『家族の法[第3版]』 利谷信義 （有斐閣）

【参考図書】 『デイリー六法』（三省堂） その他の六法も可

科目名	生活と政治行政		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

以下を身につけることをねらいとする。

1.政治過程に関する知識を身につける

私達の将来を決める政治的決定や、決定そのものを決める決定(ルール)、さまざまな状況、世界とのつながり、人のかかわりから決定が生まれてくる。こうした決定に関わるすべてを政治過程と呼び、選挙などを通してこの決定に関わる私たちはその知識を身につける必要がある。

2.ものの見方を学ぶ

知識を覚えるだけでは充分でない。バラバラの知識を覚えるだけでなくそれをどう見るかという「ものの見方」が必要となってくる。

3.政治についてデータ・論理に基づいた議論ができるようにする

どの「ものの見方」が正しいかを考えるためには、裏打ちする数字や事実などのデータ、他のものの見方との比較による一つの「論」を作る必要がある。

内容

1 ガイダンス

2 政治制度 - 議院内閣制

3 立法過程 - 予算と法律

4 立法過程 - 政策決定過程

5 立法過程 - ねじれ国会

6 政策決定システム - 議院内閣制

7 政策決定システム - 連立政権

8 前半まとめ

9 財政赤字と諸問題 - 福祉国家論と小さな政府

10 財政赤字と諸問題 - 財政危機と社会保障

11 現代日本政治の諸問題 - 2009年衆議院選挙と政権交代、自民・公明党政権の降板

12 現代日本政治の諸問題 - 民主党政権の「迷走」

13 現代日本行政の諸問題 - 震災復興と政治行政

14 現代日本行政の諸問題 - 政治家と官僚、「政治主導」とは?

15 後半まとめ

評価

小試験2回など(70%)、平常点(30%)の総合評価による

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

堀江湛『政治学・行政学の基礎知識 第2版』一藝社

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

私たちはいろいろな方法で他者とコミュニケーションを取っていますが、聴覚に障害を持つ人たちは聴覚を利用したコミュニケーション手段が使えず、その方法は聴覚を利用したものになります。この科目ではそれら視覚的なコミュニケーション手段について学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外の筆談、読唇、補聴器、てのひら書き、触手話、指点字などさまざまなコミュニケーション手段を体験的に学びます。

学修目標

手話技能に関してはNP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語と例文を理解し、自己紹介や日常生活における簡単なやり取りができるようにします。

またそれ以外のコミュニケーションについても、そのもの持つ特徴や利便性を考え、聴覚のみに限定しない、より豊かなコミュニケーション能力を身につけます。

内容

1	あいさつの表現
2	家族の表現
3	時制の表現
4	指文字 (ア行 ~ サ行)
5	名前の表現
6	指文字 (タ行 ~ 八行)
7	趣味の表現
8	指文字 (マ行 ~ ワ行)
9	写像的な表現
10	空間を利用した表現
11	地名の表現
12	自己紹介
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による自己紹介形式の実技試験 (50%)、学修目標に基づく筆記試験 (40%)、通常の授業態度 (10%) により評価を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書 ゼロからわかる手話/谷千春著/主婦の友社

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。

考える道具としての文章表現、説得するための文章表現、楽しむための文章表現、それぞれの能力を演習を通して向上させることを目的とします。Webやブログ、雑誌の中の効果的な表現を分析的に見ていきます。また、ここから学んだTipsを用い実践的な演習を積み、表現能力の向上を目指します。授業はグループワークセッションを基本に進めます。ワークの中ではMind-mapを用いたOut putの訓練も併せておこないます。

講義の性質上、授業内の演習だけでなく、たくさんの課題を課すこととなりますが、学生諸君の積極的な参加を希望します。

内容

- 第1回 何のための文章表現？
- 第2回 Mind-mapと文章作成
- 第3回 表現とフィードバック
- 第4回 身近なメディアを使った文章表現
- 第5回 ゲスト
- 第6回 分かりやすさ分かりにくさの分析
- 第7回 Web・ブログでの文章表現分析
- 第8回 課題プレゼン1
- 第9回 コンテンツを探す
- 第10回 情報の編集とOut put
- 第11回 グループセッション1
- 第12回 グループセッション2
- 第13回～第15回 まとめOut put 1～3

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1～7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation1～3ポイント） レポート・課題・・・3～8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5～10ポイント 合計ポイントと評価・・・D < 60 C < 70 B < 80 A < 90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

絵文字混じりの“ 幼い文章 ”を卒業して、“ 大人の女性の文章 ”が書けるように訓練する授業である。

誰に読まれても恥ずかしくない文章が書けるようになるためには書く練習以外に有効な方法はない。授業時間内に出来るだけたくさんの文章を書くことに力を入れる。各自が書いた文章は添削指導する。

ハガキや手紙、挨拶文から報告書、企画提案書まで幅広い文章の構成力と執筆力を養うことを目標とする。

内容

どのような文章を書けば、自分（の心・考え）を相手に過不足なく伝えられるか。この問題意識をもって様々な文章を書いていく。

ハガキ、手紙の書き方＝「誰に、何の目的」で書くか、「書く/知らせるべき要素」は十分か、「礼を欠いた文章」を書いていないか（＝丁寧語、敬語は正しく使っているか）、など。

レポート/報告書＝読む人に“ 欲求不満 ”を起こさせるような文章を書いていないか、（会社/上司の）要求に十分応えた内容が書けているか、など。

企画書/提案書＝個人として、あるいはグループとしてイベントや商品開発、業務改善などの企画や提案をする場合、どのような内容だったら「読んでもらえるか/検討してもらえるか/採用してもらえるか」、など。

以上のような授業に取り組む。

評価

各受講生が毎回の授業で書く文章＝60点、授業への取り組み＝40点の計100点とし、60点以上が合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書は授業時に随時紹介する。

科目名	文章表現（発展）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

文章表現力向上の3レベル 1基礎レベル、2応用レベル、3発展レベル の最終段階の授業に位置づける。

文章がある程度書けるようになった人にとって一層の飛躍を期すために、「作文 添削」の繰り返しによるベース構築からさらに踏み込み、他人に読んでもらえる成果物を受講者が作り上げる。

表現力が豊かで説得力を持つ文章は、人に読んでもらう緊張感、臨場感の中で磨かれること

はいうまでもない。成果物を作っていくプロセスを通して、受講者の文章力を高いレベルまで向上させる。

内容

タブロイド判4ページを基本ツールとして、埼玉県メディア企業の取り組みを取材し、「埼玉メディアニュース冬季号」（仮称）を受講者全員で作上げ、この中で編集力を身に付け、編集力と相互補完関係にある文章力アップにつなげる。執筆取材対象として埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5などが考えられる。（履修の人数を制限します）

評価

授業の取り組み姿勢という基本を踏まえ、それぞれが発展レベルにふさわしい質の高い成果物を完成させることができたかどうか、成果物により力量のアップを評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：『新聞用字用語集（記者ハンドブック）』（共同通信社）

科目名	言語表現論		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

*参加型のアクティブラーニングで授業を進めます。

社会で求められているコミュニケーション能力とは何かを理解し

必要なスキルを実践的に学び、「書く」「考える」「伝える」「理解する」力の基礎を身に付ける。

グループワークで、アウトプット、フィードバックの訓練をおこないます。

自分の考えを言語化し、見える状態にすることから始めます。

マインドマップを基本ツールとしてマスターしてもらいます。

内容

- 1 この授業の意味と評価の方法。
- 2 コミュニケーション能力とは何か。
- 3 マインドマップというツール
- 4 メディア力を高める
- 5 考える、書く、実行する方法 1
- 6 考える、書く、実行する方法 2
- 7 相手理解と伝える行為 1
- 8 相手理解と伝える行為 2
- 9 伝わる・揺さぶる 1
- 10 伝わる・揺さぶる 2
- 11 アウトプットとフィードバック
- 12 社会が求める言語運用能力とのギャップ
- 13 続けるコツと助け合い
- 14 継続的マップ化
- 15 振り返り

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想 (質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ (具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント (提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント (6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D < 60 C < 70 B < 80 A < 90 S (4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 (三省堂)

科目名	健康科学概論		
担当教員名	森 三樹雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

わが国は先進国として、少子高齢化が社会問題となっており、平均寿命は世界一になりましたが寝たきりの老人は増えております。高齢化と共に、生活習慣病が国民の健康をむしばむようになってきました。生活習慣病には、糖尿病、痛風、肥満、心筋梗塞、脳梗塞、がんなどがありますが、これらの病気の原因、検査、治療を理解することが必要です。その他の病気についても勉強し、幅広い知識を身につけましょう。この講座で、疾病についての基本的な知識を身につけ、自分自身や家族の健康に役立つ知識を習得できます。

内容

1	健康と病気 臨床検査
2	循環器疾患
3	呼吸器疾患
4	消化器疾患
5	肝・胆道疾患
6	腎・尿路系疾患
7	血液・造血器疾患
8	内分泌疾患
9	精神・神経・筋・骨の疾患
10	脂質異常症と脂質代謝
11	自己免疫疾患・膠原病
12	感染症
13	女性生殖器疾患・臓器移植
14	まとめ 1
15	まとめ 2

評価

課題の口頭発表(30%)、レポート(20%)、試験(50%)で、三分の二以上(10回以上)出席することで評価を受けることができます。合格点に満たなかった場合は、原則として再試験は行いません。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 森 三樹雄編 『やさしい臨床検査』 南山堂 2008

科目名	公衆衛生学		
担当教員名	田中 茂		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

個人や人間集団の健康を保持するために、人間と人間を取り巻く環境、すなわち、生態系を基礎として健康を理解する。更に、地域の場合や労働環境における環境保健、健康保健の意義、組織、予防対策、ならびに、これらの集団の健康保持増進について包括的知識を習得する。

内容

1	公衆衛生の概念
2	健康教育とヘルスプロモーション
3	健康と環境・疫学的方法
4	健康の指標（労働衛生管理統計を含む）
5	感染症とその予防
6	食品保健と栄養
7	生活環境の保全（作業環境要素を含む）
8	医療の制度
9	地域保健活動
10	母子保健
11	学校保健
12	生活習慣病・難病
13	精神保健福祉
14	産業保健
15	まとめ

評価

平常点3割（30%）筆記試験7割（70%）、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 清水忠彦編集 『わかりやすい公衆衛生学』ネーヴェルヒロカワ
- 【参考図書】中央労働災害防止協会編 『新衛生管理』上 第1種用 中央労働災害防止協会
 田中平三、田中茂他 『これからの公衆衛生学－社会・環境と健康』南江堂
 伊達ちぐさ、田中茂他 『管理栄養士講座 改訂公衆衛生学』建帛社
 中村信也、田中茂他 『公衆衛生学』同文書院

科目名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

社会福祉関連 専門科目

科目の概要

乳幼児期は、人生の基礎となる大切な時期であり、さまざまな側面において急速な変化がみられる。身体・認知・情緒などの諸側面から発達の過程を学び、乳幼児に対する理解を深め、臨床や実践活動のための基礎知識を身につけることを目標とする。また、生まれたばかりの状態から「人になっていく」過程を知ることによって、乳幼児期が人の一生のなかでどのような意味をもつのか考えるきっかけとなることを目指す。講義形式の授業とするが、適宜映像視聴やディスカッションなどを取り入れる予定。

学修目標

- ・乳幼児期の身体発達について説明できる
- ・乳幼児期の知覚と認知の発達について説明できる
- ・乳幼児と養育者の関係の発達について説明できる
- ・幼児期の仲間関係や社会性の発達について説明できる

内容

1	乳幼児期とは
2	新生児の能力
3	身体・運動の発達
4	認知の発達
5	個性の発生
6	「自己」への気づき
7	愛着と親子関係
8	愛着と親子関係
9	他者との関係の発達
10	情緒と感情の発達
11	言語とコミュニケーションの発達
12	遊びと想像性
13	発達障害・発達診断
14	年齢別の発達の様相
15	まとめ

評価

平常点20点、授業時の小テスト・小レポート30点、期末試験50点。合格点60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 繁多進「乳幼児発達心理学」福村出版

[推薦書] 柏木恵子他「新版発達心理学への招待」ミネルヴァ書房

科目名	対人社会心理学		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間福祉学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会心理学の中でも、特に他者との関係や相互作用に注目した科目である

科目の概要

恋愛関係を主とする親密な関係の構造と進展 (講義 1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6)

人の話を上手に「聴く」方法 (講義 7 , 8)

自己の要請を受け入れさせたり、他者の態度を変容させる方法 (講義 9 , 10 , 11)

他者に対する攻撃や援助に影響する要因 (講義 12 , 13 , 14)

学修目標

現実場面で役立つような社会心理学の知識を身につけることを学修目標とする

- ・親密な他者との関係を客観的に見られるようにする
- ・他者とのコミュニケーションについての知識を身につける
- ・要請受諾や説得のメカニズムを理解する
- ・攻撃や援助に影響する要因を理解する

内容

1	親密な関係とは何か
2	恋愛関係の構造
3	恋愛関係の発展
4	親密な関係の葛藤
5	親密な関係の崩壊
6	親密な関係の喪失
7	ソーシャルスキル：話を聴く
8	ソーシャルスキル：非言語的コミュニケーション
9	要請受諾
10	説得
11	洗脳とマインドコントロール
12	攻撃
13	援助
14	ソーシャルサポート
15	まとめ

評価

各テーマごとの課題 (40%)、試験 (50%)、通常の授業態度 (10%)

合格点に満たなかった場合は再試験を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する

【推薦書】セレクション社会心理学 サイエンス社

不思議現象 なぜ信じるのか 北大路書房

対人社会心理学 重要研究集 誠信書房

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、飯野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間福祉学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容

1	特別支援教育とは
2	障害児教育の歴史と発展
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に
4	特別支援教育体制の現状
5	特別支援教育における教育課程の編成
6	障害の理解と教育的支援1) 視覚障害・聴覚・言語障害
7	障害の理解と教育的支援2) 知的障害
8	障害の理解と教育的支援3) 肢体不自由・病虚弱
9	障害の理解と教育的支援4) 情緒障害・自閉症・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）
10	障害の理解と教育的支援5) LD（学習障害）・AD/HD（注意欠陥／多動性障害）
11	特別支援教育の展開1) 小・中学校における校内支援と連携システム
12	特別支援教育の展開2) 特別支援学校の地域支援と連携システム
13	特別支援教育における関係機関の連携1) 保育所・幼稚園の活用とその利用
14	特別支援教育における関係機関の連携2) 医療・福祉機関の役割とその活用
15	まとめ

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】湯浅恭正編『よくわかる特別支援教育』ミネルヴァ書房、石部元雄・柳本雄次編著『特別支援教育 理解と推進のために』福村出版、下司昌一編『現場で役立つ特別支援教育八

ンドブック』日本文化科学社

【その他】必要に応じて随時紹介します。